

2022 年度
自己点検・自己評価報告書

秋田しらかみ看護学院

目 次

建学の精神	P1
のしろ文化学園役員および学校組織図	P2
教育目的、教育目標、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー	P3
期待する卒業生像	P4
卒業時に得られる資格、教育課程	P5
教育課程（旧カリキュラム）一覧	P6
旧カリキュラム評価単位	P9
教育課程（新カリキュラム）一覧	P13
新カリキュラム評価単位	P16
シラバス、学内の学生支援組織	P20
学則について	P21
入学料・授業料	P22
キャンパスマップ	P23
施設・設備	P24
2022年度 秋田しらかみ看護学院目標・評価	P25
2022年度 収容定員・入学者数・在学者数・卒業者数	P28
2022年度 事業報告	P29
2022年度 財務の状況	P30
2022年度 秋田しらかみ看護学院行事実績	P31
学校まわり・学校説明会・その他参加スケジュール一覧	P32
2022年度（23期生）就職・進学状況	P35
国家試験状況	P36
2022年度 新入学生アンケート結果	P38
2022年度 卒業時アンケート集計結果	P40
2022年度 授業アンケート（総合）	P41

目 次

2022 年度 授業アンケート結果（振り返り）	P43
2022 年度 進路指導の総括	P44
2022 年度 国試対策総括	P45
2022 年度 健康診断の結果および健康管理	P51
教員の業績	P55
自己点検・自己評価委員メンバー	P65

建学の精神

本学院は、

畏敬の念に立ち、「看護専門職として人道を实践する人間」、

すなわち、「医療施設看護にあわせ、特に、時代の要請である在宅看護の担い手として地域社会に仕えると共に、国際的・地球的連帯意識をもって人類に仕える看護職」を育成する。その目的実現のため下記の達成を期する。

1. 自己教育力の養成、問題解決力の育成

教えられるのを待つのではなく、自ら主体的に問い、考え、自らを拓く姿勢、“学習力”を培う。

直面する諸困難を、“問い”すなわち自らの成長をうながす課題としてとらえ、その現実の中に対処・解決法を模索し、創造発展的に対応・行動するちからを養う。

2. 共創・共生的姿勢の育成と人間関係形成力の育成

人間の“協力”を、学習その他の活動における単なる共同作業という理解にとどめず、他者の存在を自己への問いかけとし、患者こそ自らを真の看護職たらしめる教師としてうけとめ、他者の痛み・苦しみを自分のものとして共感し、謙遜と感謝の想いをもって共に生きる姿勢をはぐくむ。

3. “畏敬の念”に基づく、生命観・人間観の育成

生を“天からの所与”、あらゆる生命をその時空における“他にかけがえのない存在”としてうけとめ、生命と人格の尊厳を護る姿勢を育てる。

4. “地球家族”の一員としての自覚と責任感の育成

人間を地球環境・宇宙生命体に連なる存在としてとらえ、祈りをもって万有を愛し、環境を愛護し、世界平和を創り出すことに仕えるところをはぐくむ。

5. 地域創造への主体的参加と奉仕の精神の育成

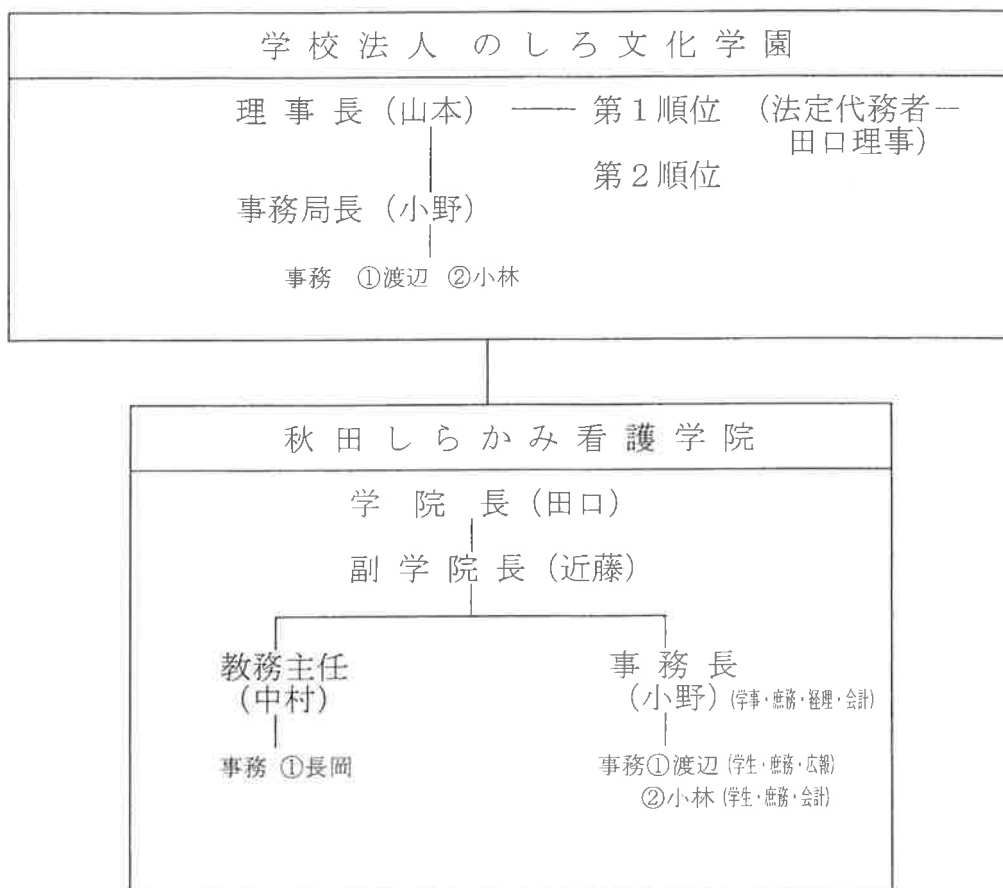
自らが地域社会の担い手、また主体であるとの自覚に立ち、地域住民の健康増進に寄与することのみならず、地域共同体の創造、“ふるさと創生”に積極的に参加、貢献するところを育てる。

1998年 4月15日

初代学院長 丹波 望

のしろ文化学園役員および学校組織図

2022年 4月 1日



教 務	中 村 陽 子
	柴 田 守
	佐 藤 雅 子
	杉 本 史
	田 中 多喜子
	加 藤 夏 生
	山 平 良 子
	鍋 谷 久美子
	神 馬 恵
	(教務助手) 宮 腰 美穂子
司 書	秋 林 紋 子

I. 教育目的

いのちの尊厳と人権を護り、看護専門職として必要な知識と実践力をもって変化する地域社会に貢献できる看護師の育成を目的とする

II. 教育目標

1. 看護の対象者である人間を統合的に捉え、生活者として理解する
2. 専門職業人として、看護倫理に基づいて看護を実践する基礎的能力を養う
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う
4. 社会を取り巻く情勢を理解し、地域で暮らす人々の健康の保持・増進、疾病予防、回復を目指した看護を実践する基礎的能力を養う
5. 他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働するための基礎的能力を養う
6. 看護専門職として、探究心を持って学び続ける力を養う

III. アドミッションポリシー

1. 本学への入学を強く志し、看護職として働きたいという明確な意思をもっている
2. 人に関心を持ち、人に向き合い、人の心を理解し、相手を尊重している
3. さまざまな価値観を受け入れ、人と関わるための努力ができる
4. 協調性があり、誠実に行動できる
5. 主体的に学んでいこうとする意欲と姿勢、創造力がある
6. さまざまな活動や人と交流する場に積極的に参加できる
7. 看護を学ぶ上での必要な基礎学力がある

IV. カリキュラムポリシー

1. 本学院のカリキュラムは、人間理解と倫理観を軸に基礎分野、専門基礎分野、専門分野を1年次から系統的に学べる構造とする
2. 「基礎分野」では、看護の対象である「人間」について深く学び、社会人基礎力および看護者としての教養や倫理観を育成するための科目設定とする。
3. 「専門基礎分野」では、専門分野を学ぶ上で必要な解剖学や疾病論といった医学的知識と人間の生活を守るための法律や福祉について学ぶ。
4. 「専門分野」は、看護の統合と実践の場として、地域で生活する人々の健康の保持増進を援助するために「地域・在宅看護論」を配置、ライフサイクル別に「小児」、「成人」、「老年」を学ぶ。生涯にわたっての健康を支援する科目として「母性」「精神」を構成した。
5. 「講義」「演習」「実習」を通して、看護職として必要な人間性と倫理観を育成し、基礎的知識と技術を獲得できるカリキュラムとする

V. 期待する卒業生像

1. (人間) 対象者を統合的 (=身体的・心理的・社会的・文化的側面) から理解している。
2. 看護職として人に対する尊厳を重んじた行動ができる基礎的能力を持っている
 - ①社会常識を身に付けて、他者に対して思いやりのある態度や行動がとれる。
 - ②信頼関係の形成に必要なコミュニケーションがとれる。
 - ③看護職としての倫理観をもち、法令を遵守した行動がとれる。
 - ④対象者の選択権および決定権を尊重した行動がとれる。
3. 科学的な根拠に基づき、健康問題を解決する能力を持っている。
 - ①対象の健康レベルに応じて、健康の保持・増進、回復過程を支援する方法を理解している。
 - ②対象の価値観を尊重し、科学的根拠に基づいた看護を実践している。
 - ③対象の状況に合わせ、安全・安楽・自立/自律に留意した看護を実践している。
4. 地域における健康課題と看護の機能や役割を理解している
 - ①地域活動への参加を通して地域の特性や健康課題を理解している。
 - ②保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、制度を理解している。
 - ③地域包括ケアシステムの観点から、多様な場における看護の機能と役割について理解している。
 - ④生涯各期における健康の保持増進や疾病予防、自立/自律に向けた回復過程における看護の役割を理解している。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割と責任、連携・協働の必要性について理解している。
 - ①医療・福祉チームにおける看護師および他職種の役割と機能を理解している。
 - ②看護チーム内における看護師の役割と責任を理解している。
 - ③看護チームの一員として他職種と協力し、連携・協働の必要性について理解している。
6. 看護職として成長していくために主体的に学習する姿勢がある。
 - ①看護専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解している。
 - ②粘り強く、自らの課題に取り組むことができる。

卒業時に得られる資格

所定の過程を修了したものに対し、専門士（医療専門課程）の称号が授与される。

教育課程

旧カリキュラム（23、24期生）

1. 授業科目は、基礎分野 13 単位（360 時間）、専門基礎分野 21 単位（510 時間）、専門分野 I 15 単位（450 時間）、専門分野 II 22 単位（585 時間）で構成されている。
2. 実習は専門分野 II と統合分野に位置づけられており、専門分野 II では 38 単位（1305 時間）統合分野 12 単位（375 時間）の計 99 単位、3000 時間で構成されている。

	1 年次		2 年次		3 年次		計
	学科(単位)	実習(単位)	学科(単位)	実習(単位)	学科(単位)	実習(単位)	
基礎分野	13						13
専門基礎分野	12		10				21
専門分野 I	9	3	2		1		15
専門分野 II			21	4		12	38
統合分野	1		4		3	4	12
合計	35	3	37	4	4	16	99

新カリキュラム（25期生）

2022（令和5）年4月1日よりカリキュラム改正となり、教育内容と時間数の見直しを行った。これまで「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野 I・II」「統合分野」に分かれていたが、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」「看護の統合と実践」に変更された。さらに、「専門分野 I・II」が「専門分野」に集約、統合分野の「在宅看護論」が、「地域・在宅看護論」に変更、専門分野に位置づけられた。計 105 単位、3030 時間のカリキュラムとなる。

	1 年次		2 年次		3 年次		計
	学科：単位 (時間数)	実習：単位 (時間数)	学科：単位 (時間数)	実習：単位 (時間数)	学科：単位 (時間数)	実習：単位 (時間数)	
基礎分野	14 (390)	3 (135)					17 (525)
専門基礎分野	12 (285)		11 (225)	6 (270)			29 (780)
専門分野	16 (360)		23 (615)		2 (30)	14 (630)	55 (1635)
看護の統合と実践			1 (30)		3 (60)		4 (90)
合計	42 (1035)	3 (135)	35 (870)	6 (270)	5 (90)	14 (630)	105 (3030)

Ⅷ 教育課程

基礎分野

旧カリ

	科 目	単 位	時 間	学年別修得単位		
				1年	2年	3年
人科 間学 と 生 活 思 考 社 会 の 理 解 盤	論 理 学	1	30	1		
	哲 学	1	15	1		
	倫 理 学	1	15	1		
	コミュニケーション論	1	30	1		
	心 理 学	1	30	1		
	人間関係論	1	30	1		
	教 育 学	1	30	1		
	環 境 科 学	1	30	1		
	社会と生活	1	30	1		
	統 計 学	1	30		1	
	英 語 I	1	30	1		
	英 語 II	1	30		1	
生活クリエイション	1	30	1			
小 計		13	360	11	2	

専門基礎分野

	科 目	単 位	時 間	学年別修得単位		
				1年	2年	3年
人 体 の 構 造 と 機 能	解剖・生理学Ⅰ	解剖生理学概論・消化器系	1	30	1	
	解剖・生理学Ⅱ	血液・循環器・呼吸器・免疫系	1	30	1	
	解剖・生理学Ⅲ	泌尿器・内分泌・生殖器・ 感覚器系	1	30	1	
	解剖・生理学Ⅳ	骨格・筋・神経系	1	30	1	
	代謝栄養学		1	30	1	
疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	疾 病 論 I	病理学	1	15	1	
	疾 病 論 II	微生物	1	30	1	
	疾 病 論 III	呼吸器・循環器	1	30	1	
	疾 病 論 IV	血液造血器・免疫アレルギー	1	30		1
	疾 病 論 V	消化器・内分泌代謝	1	30	1	
	疾 病 論 VI	脳神経・運動器・感覚器	1	30		1
	疾 病 論 VII	腎泌尿器・生殖器	1	30	1	
	疾病回復を 促進する治療Ⅰ	手術・検査・麻酔	1	30		1
	疾病回復を 促進する治療Ⅱ	栄養・リハビリテーション	1	30		1
薬 理 学		1	30		1	
社 会 保 障 支 援 制 度 と	社会福祉論Ⅰ	社会保障制度と仕組み	1	15		1
	社会福祉論Ⅱ	社会資源と活用	1	15		1
	公衆衛生学		2	30		2
	関係法規		1	15		1
	保健医療福祉論	医療の役割と保健医療福祉 の連携・協働	1	15	1	
小 計		21	510	11	10	

専門分野Ⅰ

科 目		単 位	時 間	学年別修得単位			
				1年	2年	3年	
基礎看護学	看護学概論		1	30	1		
	看護技術	看護技術Ⅰ 共通基本技術①	1	30	1		
		看護技術Ⅱ 共通基本技術②	1	30	1		
		看護技術Ⅲ 共通基本技術③	1	15	1		
		看護技術Ⅳ 日常生活援助技術①	1	30	1		
		看護技術Ⅴ 日常生活援助技術②	1	30	1		
		看護技術Ⅵ 診療の補助技術①	1	30	1		
		看護技術Ⅶ 診療の補助技術②	1	30	1		
		看護技術Ⅷ 診療の補助技術③	1	30		1	
	看護過程	看護過程の概念、看護過程演習、観察・記録・報告	1	30	1		
学	看護研究Ⅰ	看護研究の基礎	1	15		1	
	看護研究Ⅱ	論文のまとめと発表	1	15			1
実臨習地	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習① 基礎看護学実習②	1	45	1		
	基礎看護学実習Ⅱ		2	90	2		
小 計			15	450	12	2	1

専門分野Ⅱ

科 目		単 位	時 間	学年別修得単位			
				1年	2年	3年	
成人看護学	成人看護学概論		1	30	1		
	成人看護学方法論Ⅰ	慢性期	1	30		1	
	成人看護学方法論Ⅱ	急性・回復期	2	60		2	
	成人看護学方法論Ⅲ	終末期	1	30		1	
	成人看護学方法論Ⅳ	看護過程	1	30		1	
老年看護学	老年看護学概論		1	15	1		
	老年看護学方法論Ⅰ	老年期の健康の段階に応じた看護	1	30		1	
	老年看護学方法論Ⅱ	老年期の健康障害と看護	1	15		1	
	老年看護学方法論Ⅲ	看護過程	1	30		1	
小児看護学	小児看護学概論		1	15	1		
	小児看護学方法論Ⅰ	小児期における健康障害の理解	1	30		1	
	小児看護学方法論Ⅱ	小児期における健康障害児と家族の看護	1	30		1	
	小児看護学方法論Ⅲ	小児看護技術と看護過程	1	30		1	
母性看護学	母性看護学概論		1	15	1		
	母性看護学方法論Ⅰ	妊婦・産婦の看護 褥婦・新生児の看護	1	30		1	
	母性看護学方法論Ⅱ	周産期の異常・女性生殖器疾患の看護	1	30		1	
	母性看護学方法論Ⅲ	母性看護技術と看護過程	1	30		1	

精神看護学	精神看護学概論		1	15	1	1	1
	精神看護学方法論Ⅰ		精神障害の理解		1		1
	精神看護学方法論Ⅱ		精神障害のある患者の看護		1		1
	精神看護学方法論Ⅲ		精神看護技術		1		1
臨地実習	成人	成人看護学実習Ⅰ	慢性期		2		2
		成人看護学実習Ⅱ	急性・回復期		2		2
		成人看護学実習Ⅲ	終末期		2		2
	老年	老年看護学実習	回復期		2		2
		老年看護学実習	慢性期		2		2
	小児看護学実習		2	90			2
	母性看護学実習		2	90			2
	精神看護学実習		2	90			2
小計			38	1305	5	21	12

統合分野

科目			単位	時間	学年別修得単位		
					1年	2年	3年
在宅看護論	在宅看護論概論		1	15	1		
	在宅看護論方法論Ⅰ		在宅看護の場による特徴の理解			1	
	在宅看護論方法論Ⅱ		在宅看護技術			1	
	在宅看護論方法論Ⅲ		状況別看護			1	
看護実践の統括実習	医療安全		1	15		1	
	国際協力と災害看護		1	15			1
	看護管理と看護理論		1	30			1
	看護技術総合		1	30			1
	在宅看護論実習		2	90			2
	統合実習		2	90			2
小計			12	375	1	4	7

【分野別】

	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	統合分野	合計
単位	13	21	53	12	99
時間	360	510	1755	375	3000

【年次別】

	1年次	2年次	3年次	合計
単位	40	39	20	99
時間	1080	1110	810	3000

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次						
					前期		後期		前期		後期		前期		後期				
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間			
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	論理学	1	30	1	30													
		哲学	1	15			1	15											
		倫理学	1	15			1	15											
		社会と生活	1	30	1	30													
		人間関係論	1	30	1	30													
		コミュニケーション論	1	30			1	30											
		心理学	1	30	1	30													
		教育学	1	30			1	30											
		統計学	1	30					1	30									
		英語 I	1	30	1	30													
		英語 II	1	30					1	30									
		環境科学	1	30	1	30													
		生活レクリエーション	1	30	1	30													
基礎分野小計			13	360	7	210	4	90	2	60									
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1	30	1	30													
		解剖生理学 II	1	30	1	30													
		解剖生理学 III	1	30	1	30													
		解剖生理学 IV	1	30			1	30											
		代謝栄養学	1	30			1	30											
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論 I	1	15			1	15											
		疾病論 II	1	30	1	30													
		疾病論 III	1	30			1	30											
		疾病論 IV	1	30					1	30									
		疾病論 V	1	30			1	30											
		疾病論 VI	1	30					1	30									
		疾病論 VII	1	15			1	15											
		薬理学	1	30					1	30									
疾病の回復を促進する治療 I	1	30					1	30											
疾病の回復を促進する治療 II	1	30					1	30											
小計			15	420	4	120	6	150	5	150									

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次				
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	2	30					2	30							
		関係法規	1	15					1	15							
		社会福祉論Ⅰ	1	15					1	15							
		社会福祉論Ⅱ	1	15							1	15					
		保健医療福祉論	1	15			1	15									
		小計	6	90			1	15	4	60	1	15					
		専門基礎分野小計	21	510	4	120	7	165	9	210	1	15					
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30											
		看護技術Ⅰ	1	30	1	30											
		看護技術Ⅱ	1	30			1	30									
		看護技術Ⅲ	1	15			1	15									
		看護技術Ⅳ	1	30	1	30											
		看護技術Ⅴ	1	30	1	30											
		看護技術Ⅵ	1	30			1	30									
		看護技術Ⅶ	1	30			1	30									
		看護技術Ⅷ	1	30					1	30							
		看護過程	1	30			1	30									
		看護研究Ⅰ	1	15							1	15					
	看護研究Ⅱ	1	15											1	15		
	小計	12	315	4	120	5	135	1	30	1	15			1	15		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45											
基礎看護学実習Ⅱ		2	90			2	90										
小計		3	135	1	45	2	90										
専門分野Ⅰ小計		15	450	5	165	7	225	1	30	1	15			1	15		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30			1	30									
		方法論Ⅰ	1	30					1	30							
		方法論Ⅱ	2	60					2	60							
		方法論Ⅲ	1	30							1	30					
		方法論Ⅳ	1	30							1	30					
		小計	6	180			1	30	3	90	2	60					

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次					
					前期		後期		前期		後期		前期		後期			
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間		
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学概論	1	15			1	15										
		方法論Ⅰ	1	30					1	30								
		方法論Ⅱ	1	15					1	15								
		方法論Ⅲ	1	30							1	30						
		小計	4	90			1	15	2	45	1	30						
	小児看護学	小児看護学概論	1	15			1	15										
		方法論Ⅰ	1	30					1	30								
		方法論Ⅱ	1	30					1	30								
		方法論Ⅲ	1	30							1	30						
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30						
	母性看護学	母性看護学概論	1	15			1	15										
		方法論Ⅰ	1	30					1	30								
		方法論Ⅱ	1	30					1	30								
		方法論Ⅲ	1	30							1	30						
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30						
	精神看護学	精神看護学概論	1	15			1	15										
		方法論Ⅰ	1	30					1	30								
		方法論Ⅱ	1	30					1	30								
		方法論Ⅲ	1	30							1	30						
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30						
	小計			22	585			5	90	11	315	6	180					
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)	2	90							2	90						
		成人看護学実習Ⅱ (急性・回復期)	2	90									2	90				
		成人看護学実習Ⅲ (終末期)	2	90									2	90				
		老年看護学実習 (慢性期)	2	90									2	90				
		老年看護学実習 (回復期)	2	90								2	90					
		小児看護学実習	2	90									2	90				
		母性看護学実習	2	90									2	90				
		精神看護学実習	2	90									2	90				
		小計	16	720								4	180	12	540			
	専門分野Ⅱ小計			38	1305			5	90	11	315	10	360	12	540			

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次			
					前期		後期		前期		後期		前期		後期	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1	15			1	15								
		方法論Ⅰ	1	30					1	30						
		方法論Ⅱ	1	30					1	30						
		方法論Ⅲ	1	30							1	30				
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30				
	看護の統合と実践	医療安全	1	15							1	15				
		国際協力と災害看護	1	15									1	15		
		看護管理と看護理論	1	30											1	30
		看護技術総合	1	30									1	30		
		小計	4	90							1	15	2	45	1	30
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90									2	90		
		統合実習	2	90											2	90
		小計	4	180									2	90	2	90
	統合分野小計			12	375			1	15	2	60	2	45	4	135	3
総計			99	3000	16	495	24	585	25	675	14	435	16	675	4	135
学年別合計			単位数		40				39				20			
			時間数		1080				1110				810			

X 教育課程

基礎分野

新カリ

	科 目	単位	時間	学年別修得単位		
				1年	2年	3年
人科 間学 と生 活思 考 社 会 の 基 理 解	文章表現	1	30	1		
	情報科学	1	30	1		
	倫理学	1	15	1		
	社会と生活	1	30	1		
	人間関係論	1	30	1		
	コミュニケーション論	1	30	1		
	心理学	1	30	1		
	教育学	1	30	1		
	環境科学	1	30	1		
	人間発達学	1	30	1		
	英語	1	30	1		
	クリティカルシンキング	1	30	1		
	運動とレクリエーション	1	30	1		
	ボランティア論	1	15	1		
	小 計	14	390	14		

専門基礎分野

	科 目	単位	時間	学年別修得単位		
				1年	2年	3年
構人 造と 体 機 能 の	解剖生理学Ⅰ	1	30	1		
	解剖生理学Ⅱ	1	30	1		
	解剖生理学Ⅲ	1	30	1		
	形態機能学	1	30	1		
	代謝栄養学	1	30	1		
疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	病理学	1	15	1		
	感染症と微生物学	1	30	1		
	疾病論Ⅰ 呼吸器	1	15	1		
	疾病論Ⅱ 循環器	1	15	1		
	疾病論Ⅲ 内分泌代謝消化器	1	30	1		
	疾病論Ⅳ 腎泌尿器	1	15	1		
	疾病論Ⅴ 血液造血器 免疫アレルギー 皮膚 菌	1	30		1	
	疾病論Ⅵ 運動器 脳神経 耳鼻咽喉 眼	1	30		1	
	薬理学	1	30		1	
	治療論Ⅰ 検査麻酔手術 放射線 ME	1	30		1	
	治療論Ⅱ 食事と栄養	1	15		1	
治療論Ⅲ リハビリテーション	1	15		1		
社 会 保 障 制 度 と 健 康 支 援	公衆衛生学	2	30		2	
	関係法規	1	15		1	
	社会福祉論	2	30		2	
	保健医療福祉論	1	15	1		
	小 計	23	510	12	11	

専門分野

	科 目	単位	時間	学年別修得単位		
				1年	2年	3年
基礎看護学	看護学概論	1	30	1		
	看護倫理	1	15		1	
	共通基本技術Ⅰ コミュニケーション・感染対策ほか	1	30	1		
	共通基本技術Ⅱ ヘルスアセスメント	1	30	1		
	共通基本技術Ⅲ 環境調整 活動・休息援助ほか	1	30	1		
	日常生活援助技術Ⅰ 食事・排泄援助技術	1	30	1		
	日常生活援助技術Ⅱ 清潔・衣生活援助	1	30	1		
	診療の補助技術 与薬・診察検査処置	1	30	1		
	臨床看護技術 呼吸・循環を整える技術・救命救急処置ほか	1	30		1	
	看護過程Ⅰ	1	30	1		
	看護過程Ⅱ 演習	1	15	1		
	看護研究Ⅰ 看護研究の基礎	1	15		1	
	看護研究Ⅱ 演習	1	15			1
地域・在宅看護学	地域・在宅看護論概論Ⅰ	1	15	1		
	地域・在宅看護論概論Ⅱ	1	15	1		
	方法論Ⅰ	1	15		1	
	方法論Ⅱ	1	30		1	
	方法論Ⅲ	1	30		1	
成人看護学	方法論Ⅳ	1	15			1
	成人看護学概論	1	15	1		
	方法論Ⅰ 急性期 周手術期クリティカルケア	1	30		1	
	方法論Ⅱ 回復期リハビリテーション	1	30		1	
	方法論Ⅲ 慢性期	1	30		1	
	方法論Ⅳ 終末期	1	30		1	
老年看護学	方法論Ⅴ 看護過程	1	15		1	
	老年看護学概論	1	15	1		
	方法論Ⅰ	1	30		1	
	方法論Ⅱ	1	15		1	
小児看護学	方法論Ⅲ	1	30		1	
	小児看護学概論	1	15	1		
	方法論Ⅰ	1	30		1	
	方法論Ⅱ	1	30		1	
母性看護学	方法論Ⅲ	1	30		1	
	母性看護学概論	1	15	1		
	方法論Ⅰ	1	30		1	
	方法論Ⅱ	1	30		1	
精神看護学	方法論Ⅲ	1	30		1	
	精神看護学概論	1	15	1		
	方法論Ⅰ	1	30		1	
	方法論Ⅱ	1	30		1	

科 目	単 位	時 間	学年別修得単位			
			1年	2年	3年	
統 合 と 実 践 の 看 護	医療安全と看護	1	30		1	
	国際協力と災害看護	1	15			1
	看護管理	1	15			1
	看護技術総合	1	30			1
臨 地 実 習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90		2	
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	1		
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90			2
	成人看護学実習（周手術期）	2	90			2
	成人・老年看護学実習Ⅰ（回復期）	2	90		2	
	成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	2	90			2
	老年看護学実習Ⅰ	1	45	1		
	老年看護学実習Ⅱ	2	90		2	
	小児看護学実習	2	90			2
	母性看護学実習	2	90			2
	精神看護学実習	2	90			2
	統合実習	2	90			2
小 計	68	2130	19	30	19	

【分野別】

	基 礎 分 野	専 門 基 礎 分 野	専 門 分 野	合 計
単 位	14	23	68	105
時 間	390	510	2130	3030

【年次別】

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	合 計
単 位	45	41	19	105
時 間	1170	1140	720	3030

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次					
					前期		後期		前期		後期		前期		後期			
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	文章表現	1	30	1	30												
		情報科学	1	30	1	30												
		倫理学	1	15	1	15												
		社会と生活	1	30	1	30												
		人間関係論	1	30	1	30												
		コミュニケーション論	1	30			1	30										
		心理学	1	30	1	30												
		教育学	1	30			1	30										
		環境科学	1	30	1	30												
		人間発達学	1	30			1	30										
		英語	1	30	1	30												
		クリティカルシンキング	1	30	1	30												
		運動とレクリエーション	1	30	1	30												
		ボランティア論	1	15			1	15										
基礎分野小計			14	390	10	285	4	105										
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30												
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30												
		解剖生理学Ⅲ	1	30	1	30												
		形態機能学	1	30			1	30										
		代謝栄養学	1	30			1	30										
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15			1	15										
		感染症と微生物学	1	30	1	30												
		疾病論Ⅰ呼吸器	1	15			1	15										
		疾病論Ⅱ循環器	1	15			1	15										
		疾病論Ⅲ内分泌代謝消化器	1	30			1	30										
		疾病論Ⅳ腎泌尿器	1	15			1	15										
		疾病論Ⅴ血液造血器 免疫アレルギー皮膚 産	1	30							1	30						
		疾病論Ⅵ運動器脳神経 耳鼻咽喉眼	1	30							1	30						
		薬理学	1	30							1	30						
治療論Ⅰ 検査麻酔手術放射線ME	1	30							1	30								
治療論Ⅱ 食事と栄養	1	15								1	15							
治療論Ⅲ リハビリテーション	1	15								1	15							
小計			17	420	4	120	7	150	2	60	4	90						

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次			
					前期		後期		前期		後期		前期		後期	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
専門基礎分野	健康支援と社会保障制	公衆衛生学	2	30					2	30						
		関係法規	1	15							1	15				
		社会福祉論	2	30							2	30				
		保健医療福祉論	1	15			1	15								
		小計	6	90			1	15	2	30	3	45				
		専門基礎分野小計	23	510	4	120	8	165	4	90	7	135				
基礎看護学		看護学概論	1	30	1	30										
		看護倫理	1	15					1	15						
		共通基本技術Ⅰ(コミュニケーション・感染対策ほか)	1	30			1	30								
		共通基本技術Ⅱ(ヘルスアセスメント)	1	30			1	30								
		共通基本看護技術Ⅲ(環境調整・活動・休息援助)	1	30	1	30										
		日常生活援助技術Ⅰ(食事・排泄援助技術)	1	30	1	30										
		日常生活援助技術Ⅱ(清潔・衣生活援助)	1	30	1	30										
		診療の補助技術(与薬・診察検査処置)	1	30			1	30								
		臨床看護技術(呼吸・循環を整える技術・救命救急処置ほか)	1	30					1	30						
		看護過程Ⅰ	1	30			1	30								
		看護過程Ⅱ(演習)	1	15			1	15								
		看護研究Ⅰ(看護研究の基礎)	1	15							1	15				
		看護研究Ⅱ(演習)	1	15									1	15		
		小計	13	330	4	120	5	135	2	45	1	15	1	15		
基礎看護学小計	13	330	4	120	5	135	2	45	1	15	1	15				
地域・在宅看護論		地域・在宅看護論Ⅰ(概論)	1	15	1	15										
		地域・在宅看護論Ⅱ(概論)	1	15			1	15								
		方法論Ⅰ	1	15					1	15						
		方法論Ⅱ	1	30					1	30						
		方法論Ⅲ	1	30							1	30				
		方法論Ⅳ	1	15									1	15		
		小計	6	120	1	15	1	15	2	45	1	30	1	15		

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次				
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
成人看護学	成人看護学概論	1	15			1	15										
	方法論Ⅰ急性期周手術期クリティカルケア	1	30					1	30								
	方法論Ⅱ回復期リハビリテーション	1	30					1	30								
	方法論Ⅲ慢性期	1	30					1	30								
	方法論Ⅳ終末期	1	30							1	30						
	方法論Ⅴ看護過程	1	15							1	15						
	小計	6	150			1	15	3	90	2	45						
老年看護学	老年看護学概論	1	15			1	15										
	方法論Ⅰ	1	30					1	30								
	方法論Ⅱ	1	15					1	15								
	方法論Ⅲ	1	30							1	30						
	小計	4	90			1	15	2	45	1	30						
	小児看護学	小児看護学概論	1	15			1	15									
		方法論Ⅰ	1	30					1	30							
		方法論Ⅱ	1	30					1	30							
		方法論Ⅲ	1	30							1	30					
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30					
	母性看護学	母性看護学概論	1	15			1	15									
		方法論Ⅰ	1	30					1	30							
		方法論Ⅱ	1	30					1	30							
		方法論Ⅲ	1	30							1	30					
		小計	4	105			1	15	2	60	1	30					
	精神看護学	精神看護学概論	1	15			1	15									
方法論Ⅰ		1	30					1	30								
方法論Ⅱ		1	30					1	30								
方法論Ⅲ		1	30							1	30						
小計		4	105			1	15	2	60	1	30						
看護の統合と実践	医療安全と看護	1	30							1	30						
	国際協力と災害看護	1	15									1	15				
	看護管理	1	15									1	15				
	看護技術総合	1	30											1	30		
	小計	4	90							1	30	2	30	1	30		
小計	45	1095	5	135	11	225	15	405	9	240	4	60	1	30			

評価単位

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次				2年次				3年次				
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			1	45										
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90					2	90								
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	1	45												
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90									2	90				
	成人看護学実習(周手術期)	2	90									2	90				
	成人・老年看護学実習(慢性期・終末期)	2	90									2	90				
	成人・老年看護学実習(回復期)	2	90							2	90						
	老年看護学実習Ⅰ	1	45			1	45										
	老年看護学実習Ⅱ	2	90							2	90						
	小児看護学実習	2	90									2	90				
	母性看護学実習	2	90									2	90				
	精神看護学実習	2	90									2	90				
	統合実習	2	90											2	90		
	小計	23	1035	1	45	2	90	2	90	4	180	12	540	2	90		
	専門分野小計	68	2130	6	180	13	315	17	495	13	420	16	600	3	120		
総計	105	3030	20	585	25	585	21	585	20	555	16	600	3	120			
学年別合計	単 位					45				41				19			
	時 間 数					1170				1140				720			

シラバス

平成 16 年度からシラバスを作成して、教育内容を明示している。

平成 28 年度に、教育理念～カリキュラムポリシー等を見直したことで、平成 29 年度版から内容を刷新した。

令和 4 年 4 月 1 日施行のカリキュラムの改正に向け、教育目的、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、期待される卒業生像を再構築した。また、教育理念に基づき、授業科目（実習）の時間数と内容を検討、刷新した。

学内の学生支援組織

1. 奨学金支援
 - 1) 事務が窓口となり随時相談受付、ポスター掲示、入学時の説明をしている
2. 経済支援
 - 1) アルバイトの選択
3. 就職支援
 - 1) 学内就職説明、学外就職説明（業者説明・高校説明）、就職試験時の公休取得の促し、病院の紹介
4. 健康管理
 - 1) 定期健康診断、再検査推進、感染症予防接種奨励
 - 2) 日常生活指導
 - 3) 救急箱の設置、AEDの設置
 - 4) 学内および看護学実習中の不調への早期対応
 - (1) 自宅訪問、処置、保健室観察
 - 5) 学生こころの相談
 - (1) カウンセリング 1 回/月 カウンセラーの配置（NPO 法人 eナビステーションりあん）
 - (2) 学内相談室の配置 不定期
5. 原級留置した学生のカリキュラム選択などの学習支援
カリキュラム担当教員を配置し、面接・計画・実施を行っている
6. 寮生活管理と支援
 - 1) 随時生活指導・巡視を行っている
 - 2) 毎年 3 月から 4 月にかけて寮の補修・清掃
7. 就職支援
 - 1) 就職支援の担当教員（教務主任：近藤）を配置。
 - 2) 1・2 年生を対象に学内で就職説明会（秋田県の病院）を年 1 回実施。
 - 3) 求人資料の閲覧室を設置、定期的に求人情報の掲示を実施。
 - 4) 就職試験について、3 施設まで公休制度（特別休暇）を許可している。

学則について

学則に関する事項として、秋田しらかみ看護学院学則全 11 章と学則の施行に際し必要な事項を定めた細則、各種規定がある。

2017 年 4 月 1 日～変更

《秋田しらかみ看護学院学則》

第 1 章 総則

(目的) 第 1 条 (各称)、第 2 条、(位置) 第 3 条

第 2 章 課程、修行年限、定員、在学期間

(課程、修業年限、定員、在学期間) 第 4 条、(学期) 第 5 条、(休業日) 第 6 条

第 3 章 教育課程

(科目および単位数) 第 7 条

第 4 章 入学、休学、停学、転学、退学および復学

(入学資格) 第 8 条、(入学志願手続) 第 9 条、(入学者の選考) 第 10 条、

(入学手続き) 第 11 条、(保証人) 第 12 条、(異動の届け出) 第 13 条、(転入学) 第 14 条

(休学、停学または退学) 第 15 条、(復学) 第 16 条、(出席停止) 第 17 条

第 5 章：履修、卒業の認定

(出席) 第 18 条、(履修) 第 19 条、(学習の評価および単位) 第 20 条、(卒業) 第 21 条、

(専門士の称号) 第 22 条

第 6 章 職員の構成および会議

(職員の構成) 第 23 条、(会議) 第 24 条

第 7 章：入学金・授業料、その他

(入学金、授業料、その他) 第 25 条

第 8 章：健康管理

(健康管理) 第 26 条

第 9 章：賞罰

(表彰) 第 27 条、(懲戒) 第 28 条

第 10 章：文書および個人情報の取り扱い

(文書取り扱い) 第 29 条、(個人情報の取り扱い) 第 30 条

第 11 章：雑則

《秋田しらかみ看護学院学則施行細則》

(趣旨) 第 1 条、(学院秩序の維持) 第 2 条、(身分証明書) 第 3 条、(施設の利用) 第 4 条

(季節休暇) 第 5 条、(実習施設) 第 6 条、(入学試験) 第 7 条、(特別休暇) 第 8 条

《秋田しらかみ看護学院学則 各種規定》

(季節休暇規定、評価規定) 第 1 条～15 条、(学費規定) 第 1 条～5 条、

(健康管理規定) 第 1 条～5 条、(表彰規定) 第 1 条、(図書利用規定) 第 1 条～18 条

入学料・授業料

1. 学納金

項目	金額	備考
入学金	300,000円	初年度のみ
授業料	600,000円	分納制度あり
施設整備費	300,000円	毎年度

2. 預り金

学事経費（テキストおよび参考図書代・実習着等）として、年額300,000円程度を各、学年毎に納入。年度毎に精算し余剰分は次年度に繰り越し、3年次は年度末に残金を返金とする。

3. 延納分納について

- 1) 分納について、授業料60万円に限り、前期4月・後期10月に各30万円ずつの分納を可能とする。
- 2) 延納について特に制度はない。ただし、期限内での納入が困難な場合は相談に応じている。

キャンパスマップ

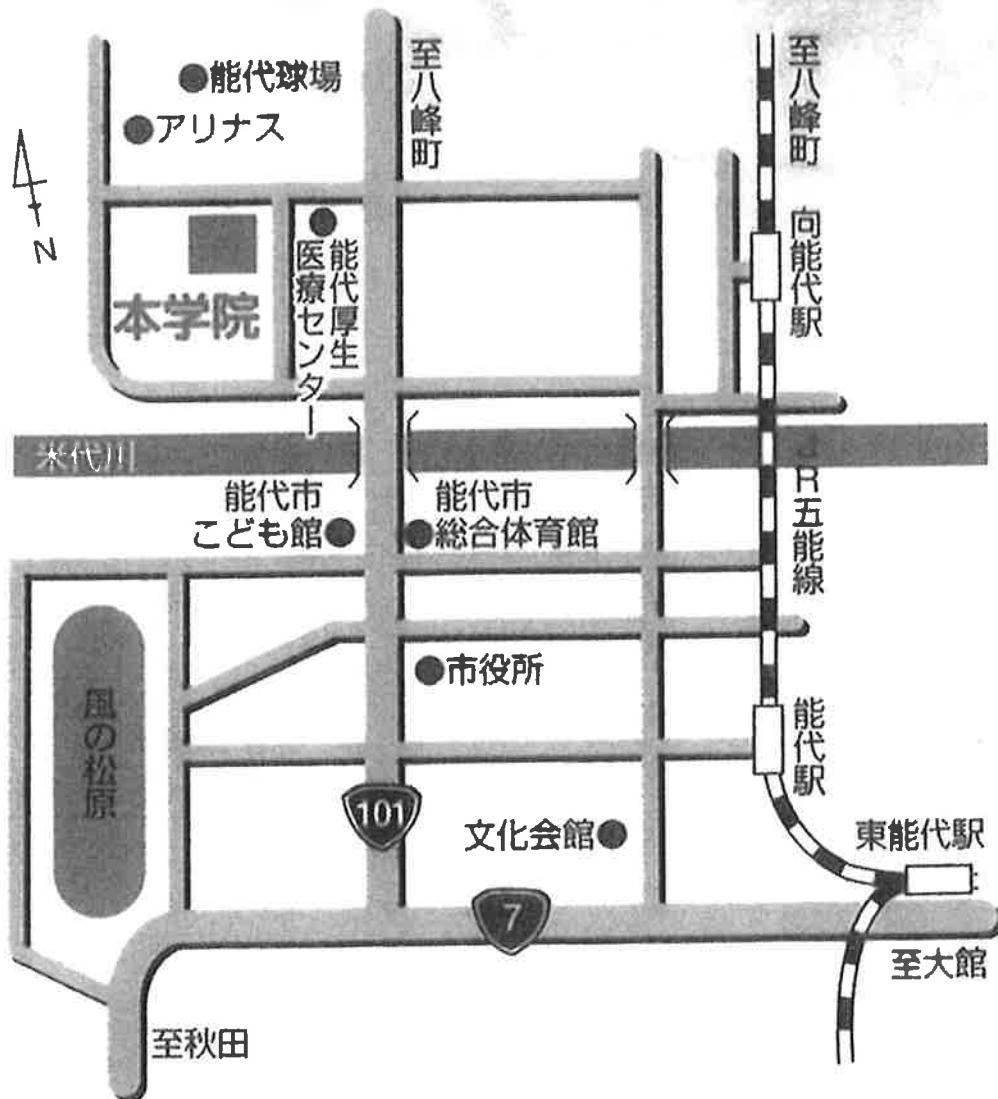
1. 住所

〒016-0014 秋田県能代市落合字下悪土120

2. 主な交通手段

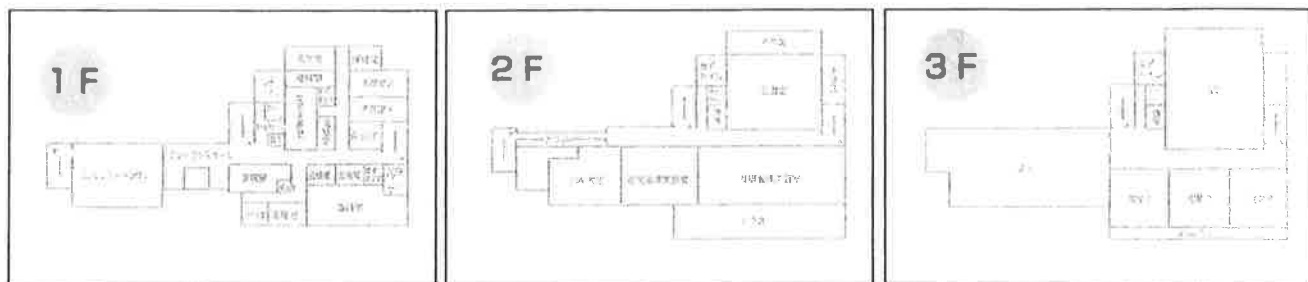
奥羽本線「東能代駅」乗り換え、五能線「能代駅」下車、車で5分。「東能代駅」下車、車で15分。

3. 地図



施設・設備

1. 地図



1F：学院長室・応接室・教務室・事務室・学生更衣室・保健室・演習室・トイレ

2F：基礎実習室・図書室・OA室・トイレ

3F：第1教室～第3教室・講堂・トイレ

その他：駐車場・駐輪場

2. 図書室

1) 学院内に独自の図書室を設置、専任の司書を配置している。

2) 令和元年4月現在、基礎分野図書 4,918 冊、専門基礎及び専門分野図書 7,771 冊、学術雑誌 34 種類。

3. 学生寮

学生の居住を目的に学生寮を設置。(令和元年4月現在、46名利用)

名 称	コーポアイリス 【1号棟・2号棟・3号棟・4号棟・5号棟・6号棟】		
所在地	1号棟：能代市落合字上釜谷地192 2号棟：能代市落合字上釜谷地191-1 3号棟：能代市落合字上釜谷地191-1 4号棟：能代市落合字上釜谷地191-1 5号棟・6号棟：能代市落合字古釜谷地37-26		
家 賃	38,000円	室 数	60室
種 類	アパート	構 造	木造2階建て
面 積	26.09㎡	間取り	1K (洋室6.75畳・台所)

2022 年度 評価

2022年度 秋田しらかみ看護学院目標

1. 教育体制と内容

教員は、講義・演習・実習をわかりやすく工夫し、学生が知識・技術を習得できるように教授する。1年次から学習目標を意識することで、自らの学習課題を発見し解決にむけ主体的に学び続ける事を強化する。

2. 学生の安全な教育環境の提供と充実

- (1) 新しいカリキュラムの導入により、主体的に教育を受けるよう指導する。
- (2) 能代警察署の協力を得て、安全な運転（自動車・自転車）と SNS の利用に関して指導を受ける。
- (3) 実習・演習中の事故等に関しては迅速に対応する。事前に事故時の対応について学生に周知する。
- (4) スクールカウンセラーを配置し、学生支援を強化する。
- (5) 教育機器の充実を図る。
- (6) 災害時の避難について確認し、緊急時の連絡を徹底する。

3. 学生評価に関して

秋田しらかみ看護学院評価委員会の評価を受ける。

4. 看護師国家試験合格に向けて

国家試験対策委員長の指示に従い、1年次から教員及び外部講師による指導を行う。

5. 学生数の確保

18歳人口の減少から看護養成機関において学生獲得は大変厳しい状況である。
指定校制度の見直しや中学生を対象としたオープンキャンパスを企画・実施する。

6. 感染対策

感染対策委員を中心に、学生や教職員に対して感染対策を徹底する。実習調整者を中心に実習における感染対策を徹底・強化する。実習施設の協力を得て、各種ワクチンの接種を計画的に行う。

7. 教員の資質向上

希望に添い、教員の研修を実施する。

2022年度 秋田しらかみ看護学院目標評価

学院長 近藤 美喜

1. 教育体制と内容

- ・25期生より新カリキュラム、3,030時間、105単位で開始した。
教員はシラバスを作成し、授業計画に則り講義に臨んでいる。グループワークによる意見交換や、視聴覚教材を使った講義の工夫を取り入れている。学生による授業評価は概ね満足しており、今後も授業研究を行っていく。
- ・カリキュラムが刷新されていることについて入学ガイダンスからシラバスを用いて説明している。科目ごとに予習復習などが重要であり、学習時間を確保するよう促している。

2. 学生の安全な教育環境の提供と充実

- ・能代警察署の協力により交通事故・SNSに関する講習を行い、注意喚起した。
- ・災害に備えて避難訓練、避難経路の確認を行った。また、災害時は、早めに対応を決定し、学生・職員に対して連絡を徹底したことにより、大きな被害はなかった。
- ・実習関連の問題では、担当教員、実習調整者の指導のもと、個人の振り返りの指導と共に、今後の対策を検討し、学生ならびに教員に対して周知徹底を図った。
- ・コロナ関連で講師・学生がオンラインで参加する機会や、行事でもオンラインを活用したりした。今後も学習環境を整備していく。

3. 学生評価に関して

- ・自己点検・評価に取り組み、学生からの評価を真摯に受け止め、教育に取り組んでいく。学校評価を受け、組織として成長する機会としていく。

4. 看護師国家試験合格に向けて

- ・低学年からの国家試験対策を取り入れており、外部講師の活用と共にスキマ学習に取り組み、成果が上がるように取り組んだ。
- ・3年次は、実習指導と共に関連する国家試験問題に取り組み、知識の定着をはかった。後半は模擬試験の結果をもとに苦手分野を克服すべく指導にあたった。
- ・112回看護師国家試験は42名受験、39人合格した。

5. 学生数の確保

- ・看護師志望の学生確保に向け、指定校枠の変更を行い、高校への説明を行った。
- ・進路相談・学校説明会等に積極的に参加して本校のPRに努めた。

- ・オープンキャンパス（高校生・社会人）を2回開催して、概ね学校に対する興味が深まった。中学生対象ふるさと企業説明会に参加した。中学生の職場体験4名を受け入れ、将来を考える機会となるよう、継続していく。

6. 感染対策

- ・コロナ関連：5月 2年生3年生、学年閉鎖 8、11月クラスター発生
その都度、生活指導を繰り返し行った。実習ならびに講義はリモート講義に切り替えて対策した。
- ・入学生他の各種ワクチン接種について、状況をみながら、個別に対応をすすめた。実習開始にあたり、必要な条件ともなるため、計画的に進めていく。

7. 教員の資質向上

- ・今後の状況をみながら、スキルアップを支援する必要がある。

2022年度 収容定員・入学者数・在学者数・卒業者数

1. 入学定員：1学年40名（総定員：120名）

2. 2022年度入学者数（入学試験別）

項目	応募者数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数
推薦入試	21 (2)	21 (2)	21 (2)	1.00	21 (2)
社会人入試	8 (2)	8 (2)	7 (1)	1.14	6 (1)
一般入試（1次募集）	10 (1)	9 (1)	9 (1)	1.00	7 (1)
一般入試（2次募集）	8 (1)	7 (1)	7 (1)	1.00	2 (0)
一般入試（3次募集）	3 (0)	2 (0)	2 (0)	1.00	0 (0)
合計	50 (6)	47 (6)	46 (5)	1.02	36 (4)

3. 在学者数：2022年4月 1年生37名、2年生38名、3年生43名 合計118名
 2023年3月 1年生33名、2年生36名、3年生43名 合計112名

4. 卒業者数：2023年3月31日現在 卒業者数：42名（留年者1名）

2022年度 事業報告

◎秋田しらかみ看護学院

1 事業報告

○事業および学校行事関連（主な学校行事は別紙参照）

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、各式典は、縮小（保護者2名・教職員）して実施した。
- ・ オープンキャンパスを2回実施、参加者総数80名（うち保護者30名）であった。
- ・ 文化講演会を6月に開催、講師に能代山本医師会会長 楊国隆氏を招いて実施した。
- ・ 学内で「自己点検・自己評価」を行い、7月には学校関係者評価委員会を実施した。
- ・ 校舎内の工事関連として、5月に火災報知機の入替工事、7月に防犯カメラの入替工事を行った。
- ・ 教育環境として、VR（ヴァーチャル・リアリティ）の講義を取り入れ看護教育の充実を図った。

○新型コロナウイルス関連

- ・ 感染対策委員との連絡を密に行い、感染者が発生した場合は速やかに対応を行った。
- ・ 8月23日に学内で複数名の陽性者が出て、クラスターと認定された。
- ・ 臨地実習ができなかった場合、迅速に学内実習に切り替え円滑に実習を行った。

○新カリキュラムの実施

- ・ 令和4年度の1年生からの実施、講義時間3,030時間、単位数105単位になった。
- ・ 地域・在宅看護論実習Ⅰと老年看護学実習Ⅰは、「地域で生活する人を知る」ことを目的に、地域の企業や施設での臨地実習を計画していたが、令和4年度は学内実習となり講義形式となった。
- ・ 新しい科目として「形態機能学」を専門基礎分野に追加した。

○学生関連

- ・ 1年生37名、2年生38名、3年生43名の計118名でスタートし、3月末現在は112名である。
- ・ 退学者、休学者、復学者について

	1年	2年	3年	合計(人)
退学者	4	2	0	6
休学者	1	0	1	2

☆ 退学・休学の理由：「進路変更」「体調不良」 ※入学直後に進路変更のため2名退学。

- ・ 「学生消防団」に1年生25名が新たに加わり、2年生27名、3年生22名と合わせ計74名となった。5月9日に学院で1年生の入団式を行った。
- ・ 進路状況について、卒業生42名中40名が就職、1名が進学した。（別紙参照）
- ・ 国家試験対策として、対策委員を中心に個別学習及び段階的教育を実施し、学習を強化した。
- ・ 2月12日に実施された第112回看護師国家試験には42名が受験し39名が合格した。
- ・ 2月14日に実施された准看護師試験には42名が受験し全員合格した。

○教職員関連

- ・ 学院長、副学院長、事務長、専任教員9、教務助手1、図書司書1、教務事務1、事務2校務1 計18名

2 財務概況報告

- ・ 支出項目ごと精査、予算内執行に努めた。
- ・ 能代市、八峰町、三種町、藤里町から昨年引き続き運営費補助金が交付された。

財務の状況

◎2022（令和4）年度

1.学院の主なる収入原資は、下記のとおりである。

- 1) 学納金（入学金・授業料・施設整備費）
- 2) 補助金
 - (1) 国庫補助金
 - (2) 秋田県単独（県単）補助金
 - (3) 地方公共団体補助金
 - (4) その他（入学検定料・試験手数料・各種証明手数料等）

2.上記の収入は本業の主なる収入であり、「教育活動収入」として経理処理する。

3.「教育活動収入」に対し年間の「教育活動支出」の主なる経費は、「人件費・教育研究費・管理経費等」があり、その経費には「減価償却額」も含まれている。

4.令和3年度の決算では、

- 1) 教育活動収入・・・162百万円に対し、
 - (1) 人件費110百万円・・・人件費比率67.9%
 - (2) 経費（減価償却額を含む）52百万円・・・経費率 32.1%
- 2) 学院経費の9割は固定経費であり必要とされ、一般企業とは違い「経費の削減」は課題事項の一つでもある。

5.支出の9割を占める「固定経費」を賄うには、収入の減少を抑えなければならない。

特に学納金に関連する「生徒の確保」は死守しなければならない。定員120名を下回った場合、補助金算定は「実定員分での支給」となり資金繰りは厳しくなる。

〈総括〉

令和4年度の決算は、繰越金82百万円を計上した。教職員の協力に感謝いたします。

担当 小野 鈴江

2022年度 秋田しらかみ看護学院 行事实績

1. 実績

令和5年3月31日現在

月	日	行 事
4	7	入学式
	11	臨地実習開始（3年生）～10/27
	15	学院創立記念日
	28	交通安全講習会
6	17	戴帽式（24期生）
	22	文化講演会（講師：能代山本医師会会長 楊国隆）
	27	防災訓練
7	22	国家試験対策特別講義（各学年）～2/23 ※随時
	25	オープンキャンパス
8	22	地域・在宅看護論実習（1年生）～26日
9	20	前期科目修得試験～22日
10	7	学院祭 ※学生と教職員のみ
	8	オープンキャンパス
	28	老年看護学実習（1年生）～11/4
11	5	推薦入学試験
	8	成人・老年看護学実習（2年生）～12/15
	11	推薦入学試験合格発表
1	7	一般入学試験（第一次募集）
	13	一般入学試験合格発表（第一次募集）
	23	基礎看護学実習（1年生）～28日
2	4	一般入学試験（第二次募集）
	10	一般入学試験合格発表（第二次募集）
	12	第112回看護師国家試験
	14	准看護師試験
3	1	後期科目修得試験～4日
	5	卒業式
	6	一般入学試験（第三次募集）
	13	准看護師試験合格発表
	10	一般入学試験合格発表（第三次募集）
	24	第112回看護師国家試験合格発表

秋田しらかみ看護学院

学校まわり・学校説明会・その他参加スケジュール一覧

月日【車】	行き先	時間	業者（備考）	担当者
4月13日（水）	花輪高校	10：10～ 12：00	キッズコーポレーション	小野事務長
4月15日（木）	秋田会場 アルヴェ	15：15～ 18：00	ライセンスアカデミー	田口学院長
4月18日（月）	大館会場 プラザ杉の子	15：15～ 18：00	ライセンスアカデミー	小野事務長
4月20日（水）	五所川原 資料参加	13：15～ 17：00	ライセンスアカデミー	
4月20日（水）	由利会場 本荘グランドホテル	15：15～ 18：00	ライセンスアカデミー	小野事務長
4月21日（木）	青森会場 資料参加	13：15～ 18：00	ライセンスアカデミー	
4月25日（月）	横手会場 横手セントラルホテル	15：15～ 18：00	ライセンスアカデミー	小野事務長
4月25日（月）	石巻会場 資料参加	15：45～ 18：00	ライセンスアカデミー	
4月26日（火）	大崎会場 資料参加	15：15～ 19：00	ライセンスアカデミー	
4月26日（火）	大仙会場 大曲エンパイヤホテル	15：15～ 18：00	ライセンスアカデミー	小野事務長
4月27日（水）	大館会場 プラザ杉の子	15：50～ 18：00	昭栄広報	田口学院長
4月28日（木）	気仙沼会場 資料参加	15：45～ 18：30	ライセンスアカデミー	
5月13日（金）	能代科学技術	11：30～ 12：50	ライセンスアカデミー	田口学院長
5月25日（水）	五城目高校	13：55～ 15：15	ライセンスアカデミー	田口学院長
5月25日（水）	秋田会場 アルヴェ	15：50～ 18：00	昭栄広報	小野事務長
5月26日（木）	大仙会場 大曲交流センター	15：50～ 18：00	昭栄広報	小野事務長
5月27日（火）	湯沢会場 湯沢ロイヤルホテル	15：50～ 18：00	昭栄広報	小野事務長
6月 9日（水）	能代松陽高校	12：40～ 14：00	ライセンスアカデミー	田口学院長 小野事務長
9月12日（火）	アルヴェ	15：30～ 18：00	ライセンスアカデミー	小野事務長
9月14日（水）	角館高校	13：20～ 15：10	さんぼう	田口学院長

10月 5日 (水)	能代文化会館 中学校説明会	10:20～ 15:30	山本地域振興局	田口学院長 渡辺
10月12日 (水)	秋田北鷹高校	11:25～ 12:35	キッズコーポレーション	渡辺
10月17日 (月)	プラザ杉の子	15:15～ 18:00	ライセンスアカデミー	小野事務長
10月18日 (火)	本荘グランド	15:15～ 18:00	ライセンスアカデミー	小野事務長
10月19日 (水)	秋田西高校	14:40～ 16:00	ライセンスアカデミー	小野事務長
10月24日 (月)	横手セントラル	15:15～ 18:00	ライセンスアカデミー	小野事務長
10月26日 (水)	アルヴェ	15:50～ 18:00	昭栄広報	小野事務長
10月26日 (水)	大曲エンパイヤ	15:15～ 18:00	ライセンスアカデミー	渡辺
11月 4日 (金)	五城目高校	13:55～ 15:15	ライセンスアカデミー	渡辺
11月 8日 (火)	男鹿海洋高校	13:35～ 14:55	ライセンスアカデミー	小野事務長
11月 9日 (水)	花輪高校	12:10～ 15:10	ライセンスアカデミー	近藤副学院 長
11月 4日 (金)	五城目高校	13:55～ 15:15	ライセンスアカデミー	渡辺
11月 8日 (火)	男鹿海洋高校	13:35～ 14:55	ライセンスアカデミー	小野事務長
11月 9日 (水)	花輪高校	12:10～ 15:10	ライセンスアカデミー	近藤副学院 長
11月14日 (月)	プラザ杉の子	15:50～ 18:00	昭栄広報	小野事務長
11月16日 (水)	横手清陵高校	14:10～ 15:30	ライセンスアカデミー	小野事務長
11月18日 (金)	湯沢ロイヤルホテル	15:50～ 18:00	昭栄広報	小野事務長
11月18日 (金)	西仙北高校	12:50～ 15:10	さんぼう	近藤副学院 長
11月21日 (月)	大曲工業高校	14:05～ 14:35	昭栄広報	小野事務長
12月 7日 (水)	湯沢翔北高校	12:40～ 14:00	ライセンスアカデミー	小野事務長
12月13日 (火)	能代科学技術高校	14:00～ 15:15	ライセンスアカデミー	田口学院長

1月30日(月)	秋田会場 アルヴェ	15:50～ 18:00	昭栄広報	小野事務長
2月1日(水)	秋田会場 アルヴェ	15:15～ 18:00	ライセンスアカデミー	小野事務長
2月1日(水)	秋田修英高校	13:10～ 14:30	さんぼう	近藤副学院 長
2月7日(火)	由利工業高校	12:50～ 15:10	ライセンスアカデミー	小野事務長
2月21日(火)	西仙北高校	14:00～ 15:10	さんぼう	小野事務長

2022年度（23期生）就職・進学状況

令和5年3月31日 現在

3年生	就職者		進学者		未定	休学
	県内	県外	県内	県外		
43(41)	35(34)	5(4)	1(1)	0(0)	1(1)	1(1)
	40(38)		1(1)			

※（ ）は、県内出身者。

就職

県名	施設名	人数
秋田県	能代厚生医療センター	8
	北秋田市民病院	2
	秋田厚生医療センター	1
	大曲厚生医療センター	1
	由利組合総合病院	1
	かつの厚生病院	1
	JCHO秋田病院	2
	能代山本医師会病院	6
	国立病院機構あきた病院	3
	秋田県立循環器・脳脊髄センター	1
	大館市立病院	1
	中通総合病院	1
	市立横手病院	1
	横手市立大森病院	1
	杉山病院	1
	協和病院	1
	島田病院	1
	森岳温泉病院	1
ショートステイげんき	1	
宮城県	仙台厚生病院	2
	国立病院機構 宮城病院	1
青森県	黒石病院	1
千葉県	新松戸中央病院	1
合計		40

進学

県名	学校名	人数
秋田県	秋田県立衛生看護学院 助産科	1
合計		

秋田しらかみ看護学院

国家試験状況

期生	受験者	合格者	不合格者	合格率	全国平均
1期生	40	30	10	75.0%	84.1%
2期生	42	30	12	71.4%	84.3%
3期生	36	32	4	88.9%	92.6%
4期生	39	36	3	92.3%	91.2%
5期生	37	32	5	86.5%	91.4%
6期生	40	27	13	67.5%	88.3%
7期生	32	29	3	90.6%	90.6%
8期生	41	41	0	100%	90.3%
9期生	31	29	2	93.5%	89.9%
10期生	31	29	2	93.5%	89.5%
11期生	42	36	6	85.7%	91.8%
12期生	41	41	0	100%	90.1%
13期生	40	38	2	95.0%	88.8%
14期生	37	36	1	97.3%	89.8%
15期生	35	35	0	100%	90.0%
16期生	35	35	0	100%	89.4%
17期生	36	34	2	94.4%	88.5%
18期生	41	41	0	100%	91.0%
19期生	37	36	1	97.3%	89.3%
20期生	35	33	2	94.3%	89.2%
21期生	40	39	1	97.5%	90.4%
22期生	36	35	1	97.2%	91.3%
23期生	42	39	3	92.9%	90.8%
合計	866	793	73	91.6%	
R5年3月 現在 総卒業生 827名	866	857	9	99.0%	
総卒業生数	867 (未受験1名)	857	10 ※未受験含	98.8	

(佐々木叶・尾形麻綺・牧野寧々・渡部涼子・三谷友里恵・齋藤昭・幸坂圭祐・菅野亜弓・水野羊子) 【未受験：三浦彩夏】

国家試験状況

秋田しらかみ看護学院

(人)

	期生	受験者	合格者	不合格者	合格率	全国平均
第 107 回	18 期生	41	41	0	100%	96.3%
	既卒生	3	1	2	33.3%	44.5%
	合計	44	42	2	95.4%	91.0%
第 108 回	19 期生	37	36	1	97.3%	94.7%
	既卒生	2	0	2	0%	29.3%
	合計	39	36	3	92.3%	89.3%
第 109 回	20 期生	35	33	2	94.3%	94.7%
	既卒生	3	1	2	33.3%	37.4%
	合計	38	34	4	89.5%	89.2%
第 110 回	21 期生	40	39	1	97.5%	95.4%
	既卒生	3	2	1	66.6%	44.4%
	合計	43	41	2	95.3%	90.4%
第 111 回	22 期生	36	35	1	97.2%	96.5%
	既卒生	1	1	0	100%	38.9%
	合計	37	36	1	97.3%	91.3%
第 112 回	23 期生	42	39	3	92.9%	95.5%
	既卒生	1	1	0	100%	36.5%
	合計	43	40	3	93.0%	90.8%

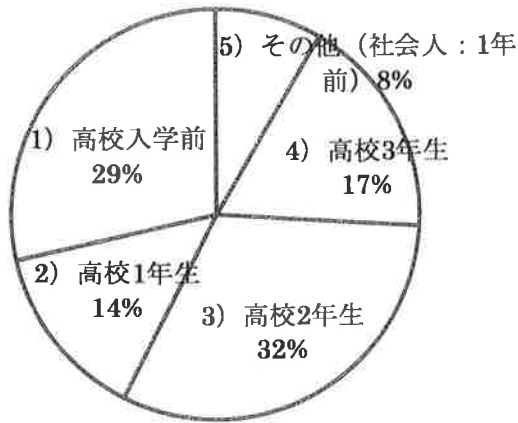
第 112 回 (新卒)

大学	3 年課程	
秋田大学 97.1%	秋田県立衛生看護学院 100%	秋田看護学校 100%
日本赤十字秋田大学 92.2%	中通高等看護学院 97.7%	
秋田看護福祉大学 96.7%	由利本荘看護学校 91.7%	

2022年度 新入学生アンケート結果 (対象 35名) 回収率 100%

令和4年度「新入生35名」を対象に9項目についてアンケートを6月に実施し全対象から回答を得られた。

1. 看護師を目指した時期

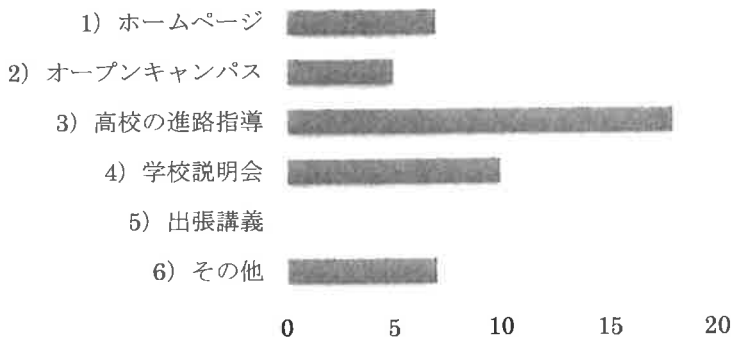


具体的に将来を考えて進路選択をする「高校2年生」の時期以外にも、高校入学前から「看護職」を選択肢としている学生が30%近く入学している。

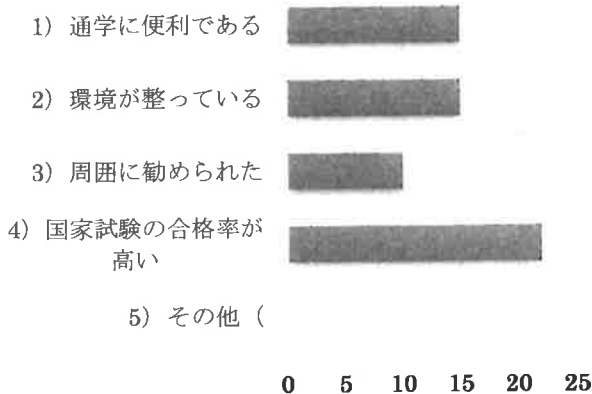
コロナ禍で出張講義を開催する機会を得られなかったが、学校訪問等を通し、各学校の進路指導教員と連絡がとれ、学校説明会と合わせて結果に反映されたと考える。

高校入学前から看護職を目指している学生も多いことから、地元の小・中学校との交流も工夫しながら継続していく。

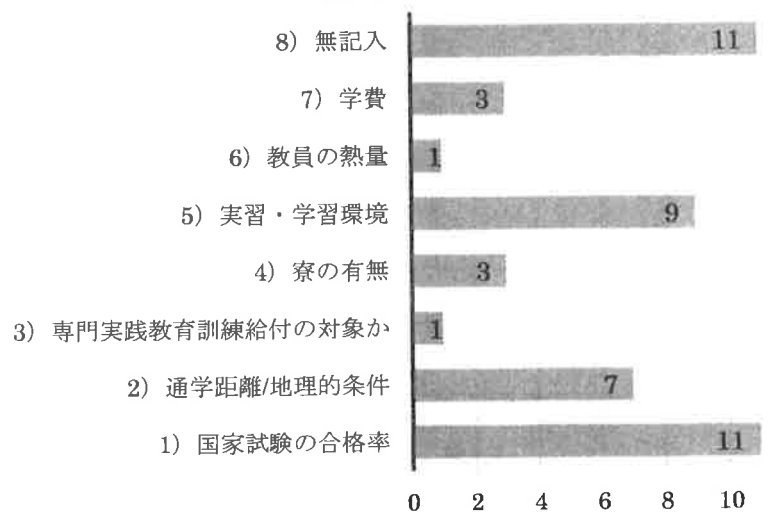
2. 本学院を知った方法 (複数回答)



3. 当学院の選択理由 (複数回答)

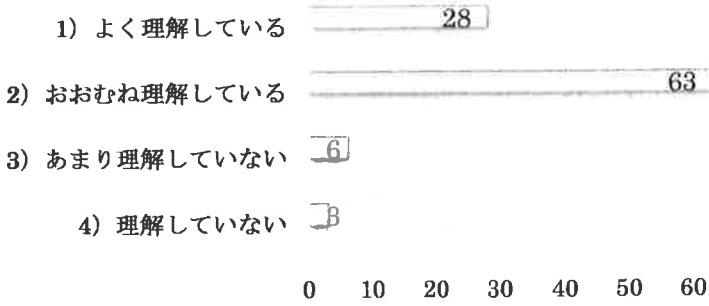


4. 選択で重視したこと (自由記載)

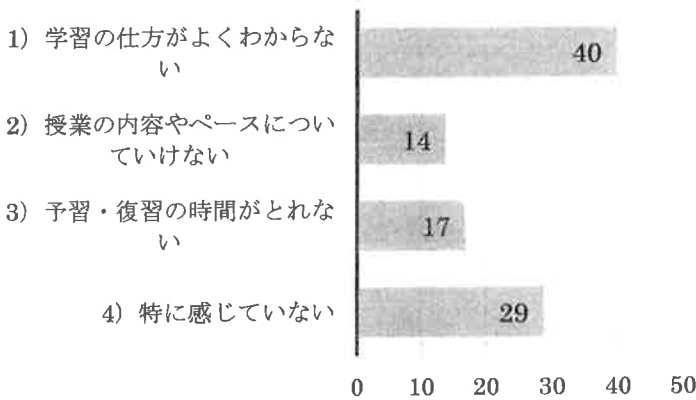


学習や実習に集中できる環境という好イメージを「学校見学会」や「パンフレット」等からの情報発信で得られたという学生もいた。また、社会人の進学者にとって「専門実践教育訓練給付」の対象であることも重要な要件であることを再認識できた。

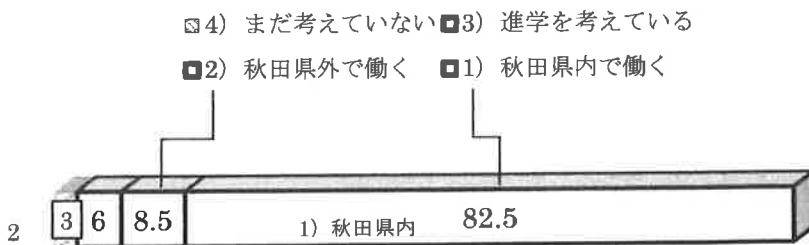
5. 理念や教育目標等の理解



6. 学習面への不安



8. 卒業後の進路



9. 本学院に希望すること（自由記載）

ほとんどの学生が未記入であった。

- 1) 毎月の時間割を早めに配布・開示してほしい 2) 有志対象で放課後の勉強会を開催してほしい
少数ではあるが、記載があった。

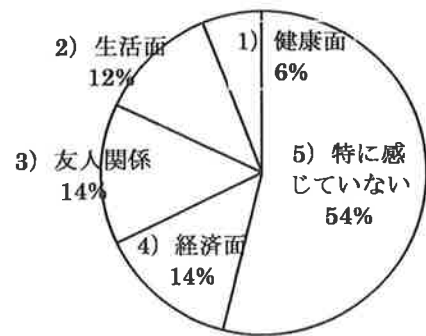
高校とは異なり、授業時間の長さや専門性のある学習内容・課題など、さらに学習への不安が高まると考える。放課後の勉強会開催希望も学習者として意識が高いと思われるだけでなく、学習への不安とも考えられる。感染対策も考慮し、学生の要望を検討していく。

教育理念・教育目標について、ホームページや学校説明会をはじめ、高校や実習施設など説明してきたが、受験をきっかけに教育理念や目標に関心をもっていると思われる。

令和4年度から新教育課程がスタートしたこともあり、学生の関心と教育目標に沿った学習につながっていくよう努めていく。

専門用語への戸惑いや課題の多さなどから、すでに学習面への不安を抱えている学生も多い。学習についていけないことで、学習意欲の低下にもつながることから、1日の学習時間の確保と使い方など、早期に働きかける必要がある。

7. 学習面以外の不安



2022年度 卒業時アンケート集計結果

令和4年度卒業生41名を対象に15項目についてアンケートを実施し、全対象から回答を得られた。

(n=41)

NO.	評価項目	令3	令4	割合	
1	教育目的・目標を意識して学べた	3.2	3.63	63.4	36.6
2	基礎分野の教育内容に満足している	3.6	3.65	68.3	29.3
3	専門分野の教育内容に満足している	3.5	3.63	65.9	31.7
4	実習の教育内容・実習環境に満足している	2.9	3.56	56	44
5	専門的な知識が身についた	3.7	3.73	75.6	22
6	看護基礎的な技術が身についた	3.6	3.73	73.1	26.9
7	シラバスと実際の授業の内容はおおむね一致している	3.2	3.68	68.3	31.7
8	学習のための教材及び図書は十分である	3.3	3.46	63.4	29.3
9	個別指導・進路指導など学生をサポートする体制が整っている	3.5	3.73	73.1	26.9
10	健康管理体制に満足している	3.4	3.73	73.1	26.9
11	課外活動に満足している	2.9	3.41	53.7	34.1
12	学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	3.3	3.6	61	39
13	看護観・倫理観をもつことができた	3.7	3.73	73.1	26.9
14	教育用施設・設備が充実している	3.3	3.46	63.4	31.7
15	全体的にみて、本学院で学んだことに満足している	3.7	3.8	80.5	19.5

評価基準 4:大いにそう思う 3:そう思う <平均>

2:あまり思わない 1:全く思わない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

□4 □3 □2 □1 ●無記入

No	回答番号	理由
1	4	1年次から意識して勉強を続けることができた
	3	目標を目指し学習できたと感じるため
2	3	技術・学力につながったため
3	4	先生方がわかりやすく丁寧に教えてくれた
	3	実習で努力できたから
4	4	学内実習でも環境を整えてくれた
	3	実習で努力できたから
		おむつなどの消耗品を濡らすことができなかつたので、やりにくかつた
5	4	臨床で必要な知識を学べた
6	4	コロナ禍で基礎を意識して取り組めた
9	4	先生方が生徒一人ひとりに寄り添ってサポートしてくれていた
		先生方全員が親身になってくれた
10	4	病気せず、土日にリフレッシュできた
11	2	機会に恵まれなかつた
12	3	先生による
13	4	目指していくものが見つけられた
15	4	3年間ありがとうございました

在学中、新型コロナウイルス感染症や対策の影響を色濃く受けた卒業生であったが、遠隔授業や映像コンテンツを学内実習に取り入れるなど学習環境を整えることで学生の満足感につながったと考える。また、本校の特徴である国家試験対策も学生の不安緩和の一助になり昨年以上の評価結果につながったと考える。旧カリと新カリが混在する次年度の課題を含め学生の学習環境に努める。

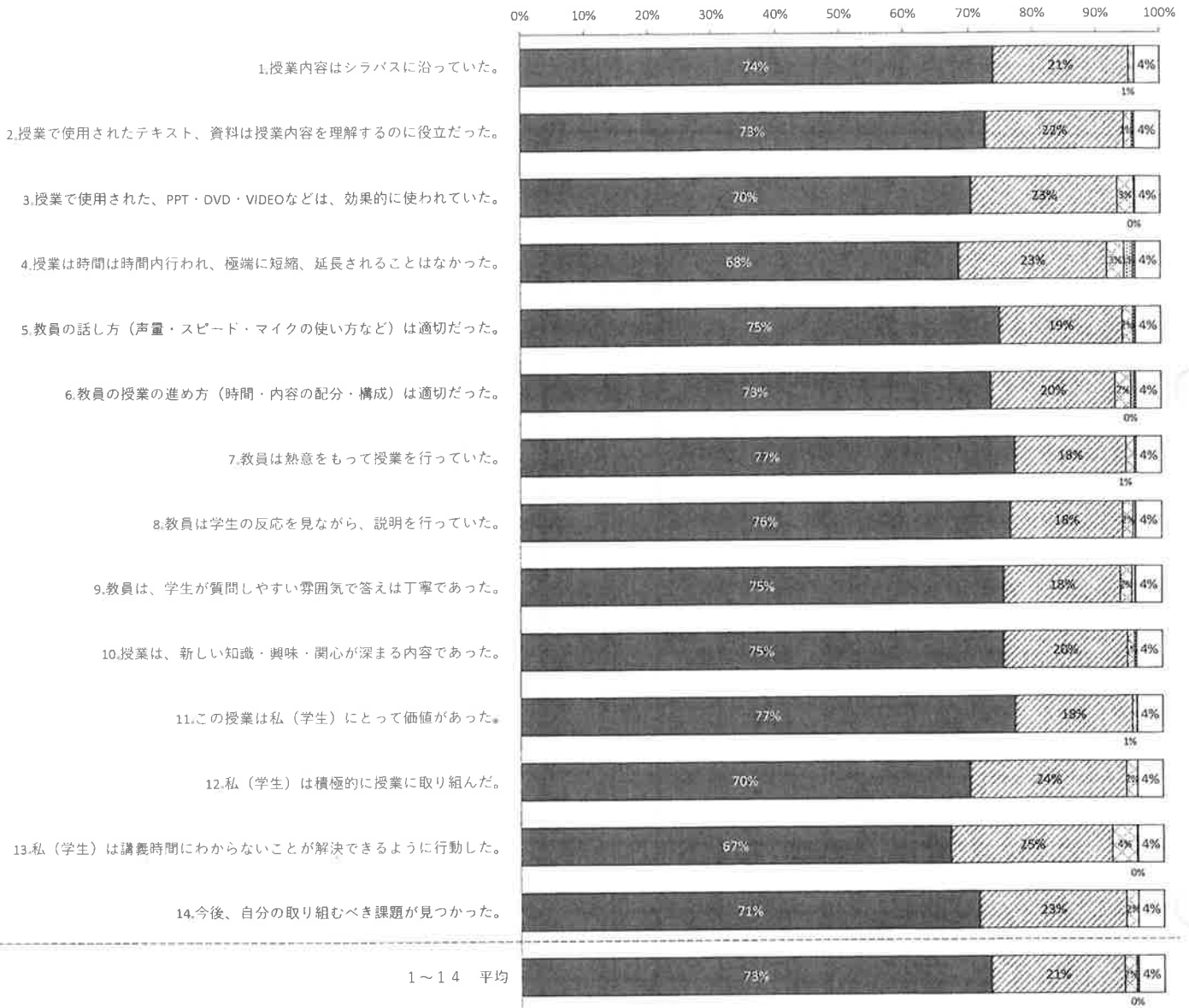
2022年度 授業アンケート（総合）

※このアンケートは授業改善を目的としています。成績とは無関係であり、無記名調査であるため個人が特定されることはありません。

以下の項目について、どれかひとつに○をつけて下さい。

番号	質問内容	1 (強く思う)		2 (そう思う)		3 (どちらとも言えない)		4 (思わない)		5 (全く思わない)		無回答	
		合計	割合	合計	割合	合計	割合	合計	割合	合計	割合	合計	割合
1	1.授業内容はシラバスに沿っていた。	749	74%	216	21%	9	1%	0	0%	0	0%	40	4%
2	2.授業で使用されたテキスト、資料は授業内容を理解するのに役立っていた。	736	73%	221	22%	13	1%	3	0%	0	0%	41	4%
3	3.授業で使用された、PPT・DVD・VIDEOなどは、効果的に使われていた。	713	70%	233	23%	26	3%	2	0%	0	0%	40	4%
4	4.授業は時間は時間内行われ、極端に短縮、延長されることはなかった。	693	68%	236	23%	27	3%	14	1%	4	0%	40	4%
5	5.教員の話し方（声量・スピード・マイクの使い方など）は適切だった。	757	75%	196	19%	17	2%	3	0%	1	0%	40	4%
6	6.教員の授業の進め方（時間・内容の配分・構成）は適切だった。	743	73%	198	20%	25	2%	5	0%	3	0%	40	4%
7	7.教員は熱意をもって授業を行っていた。	780	77%	178	18%	13	1%	3	0%	0	0%	40	4%
8	8.教員は学生の反応を見ながら、説明を行っていた。	773	76%	179	18%	17	2%	3	0%	1	0%	41	4%
9	9.教員は、学生が質問しやすい雰囲気では答えは丁寧であった。	762	75%	186	18%	18	2%	5	0%	1	0%	42	4%
10	10.授業は、新しい知識・興味・関心が深まる内容であった。	761	75%	198	20%	11	1%	3	0%	0	0%	41	4%
11	11.この授業は私（学生）にとって価値があった。	779	77%	187	18%	7	1%	1	0%	0	0%	40	4%
12	12.私（学生）は積極的に授業に取り組んだ。	708	70%	248	24%	18	2%	0	0%	0	0%	40	4%
13	13.私（学生）は講義時間にわからないことが解決できるように行動した。	677	67%	255	25%	39	4%	2	0%	0	0%	40	4%
14	14.今後、自分の取り組むべき課題が見つかった。	721	71%	233	23%	19	2%	0	0%	0	0%	40	4%
1～14 平均		739	73%	212	21%	19	2%	3	0%	1	0%	40	4%
15	この授業に関する良かった点と改善した方が良かった点について、建設的な意見を聞かせて下さい。	<自由記載>											

2022年度 授業アンケート (総合)



■ 1 (強くそう思う) □ 2 (そう思う) □ 3 (どちらともいえない) □ 4 (思わない) ■ 5 (全くそうは思わない) □ 無回答

2022年度 授業アンケート結果（振り返り）

全項目の平均は昨年同様、質問項目：1「強くそう思う」と2「そう思う」が全体の9割を占め、「事前学習が大変だったが、解剖の復讐になってよかった。」「グループワークを行うことで内容がさらに深まった。」など学生の評価は良好であった。

また、「話がおもしろく興味がでて記憶に定着する」「ボランティアをやってみたくなった」など、授業からさらに各分野への興味・関心が広まったという自由記載もあった。「YouTubeなども活用されてより知識が広まった」や「教員の話し方が優しく癒される」「すごく説明が丁寧でわかりやすかった」など、教員の態度が学生に良い印象として捉えられていた。

コロナの影響としては、コロナに罹患し自宅待機となった学生もZOOMで授業に参加することができた。入学前から新入生には、パソコンの準備とインターネットの環境を整えるよう文書で知らせ、入学後は、個々の学生のメールアドレスの確認と登録、ZOOMで操作の確認を行った。最初は慣れない学生もいたが、回数を重ねることでスムーズに遠隔授業に対応することができるようになった。職員も対応2年目ということもあり、使い方にも慣れ（ZOOM操作）、遠隔授業においてもグループワーク（演習）を積極的に行うことができるようになった。資料の配布方法や器材の取り扱いなど、遠隔授業での対応は可能になったが、成績と対応させながら学生の理解度を評価していきたい。

2022年度 進路指導の総括

1. 3年次進路指導

1) 4月5日 進路調査最終提出 4月6日 / 就職ガイダンス

2) 3年次生 進路指導

・就職先が決定している者2名。春休みから志望先の決定と準備行動を呼びかけたところ、6月7月の受験があった。しかし実習中に就職活動をする事の大変さが伺える。今後も余裕をもって取り組めるように、促しが必要である。

仙台厚生病院、秋田大学附属病院、秋田県厚生連等、採用試験が5月末からスタートした。

・履歴書作成・面接に関しては、2年次末に指導を実施した。履歴書添削や面接対策では、担任の協力を頂いた。先輩の就活資料を参照して試験に臨む学生は多かった。

・県外受験でオンライン受験した者4名、県外受験し、自粛期間とPCR検査を受けた者1名。

・進学については、推薦で助産師課程1名合格。保健師課程2名は不合格となった。小論文に取り組み、学院長はじめ添削指導をしていただき、自信につながったと思われる。

・内定に至らない学生とは面談により病院紹介を行った。

・国家試験後に受験した1名は内定に至らなかった。

・情報提示については、事務が担当し、事務室前の提示、進路指導室の資料整理を適宜行っていて、今後も継続していく。

2. 低学年進路指導

・1.2年生 夏休み期間には、進学施設見学 衛生看護学院・秋田県内の大学オープンキャンパスの紹介、病院見学、インターシップの紹介、業者による就職説明会の紹介を行った。コロナ禍にあり、直接的な行動が制限されたが、見学やオンラインの交渉など行動していた。

・1年生 年度末に進路調査を行った。結果をもとに次年度の指導に生かしたい。

・2年生 ①6月15日 / 就活スタートアップ講座開催 (マイナビ) 病院見学・インターシップの意欲を高めた。

②1月20日 / 2年生に対し能代市内の3施設を招いて就職説明会を実施した。新型コロナウイルスの影響を考慮し、対面形式ではなく講義形式で実施した。施設に対する質問を考慮して臨ませたところ、今後の就職活動の参考になったとする者がほとんどであった。今後も継続し、対象施設については、その都度検討していきたい。③3月9日マイナビ「志望動機・自己分析」④3月10日ハローワーク「履歴書・面接の仕方」について研修の機会とし、就活準備体制を整えた。学年末には2年生に対し、最終進路調査を実施し春休み期間に早期の受験準備を整えるよう指導した。

・9月5日進学に関して衛生看護学院の助産師・保健師のオンライン説明会があった。1年生3名、2年生5名が参加した。

3. 総括

23期生には、春休みに志望を決定するように投げかけ、計画的に学内の期間を有効活用し、実習との両立を図るように促した。しかし個々の状況を見て進路決定を支援し、国家試験の学習に集中できるよう、指導にあたっていく必要がある。学生の不安の対応、書類指導等では、担任の協力を得て連携をとり、的確な指導に活かしていきたい。自らの進路を具体化するまでに時間を要する学生は、進路調査の段階で、目標とする看護をイメージし、志望動機を具体的に明確化できるように指導していきたい。今後の指導におきましても、職員皆様のご指導・ご協力をお願いします。

2022年度 国試対策総括

1. 今年度各学年の国試対策実施内容

1) 1年生(25期生)国試対策実施内容

- ①4月国試対策ガイダンス
- ②レビュー及びメヂカルフレンド国試問題集の購入
- ③国試対策ノートの実施→国試過去問・模試問題に対しての国試対策ノートの実施と教員の学習チェック・指導
- ④メディコ・佐々木先生からの国試対策講義
 - ・夏季集中講座：7月22日・23日(2日間10時間)
 - ・冬季解剖生理学講義+模試解説講義(10時間) / 計20時間
- ⑤模擬試験 計3回実施
 - ・7月：スタートアップテスト(生物化学・生活・保健=高校までの知識を活用し解く)
 - ・12月：アカデミー・専門基礎科模試(人体の構造と機能)
 - ・3月：医教・科目別強化トレーニング(基礎看護・人体の構造と機能)

2) 2年生(24期生)国試対策実施内容

- ①4月国試対策ガイダンス
- ②国試対策ノートの実施→国試過去問・模試問題に対しての国試対策ノートの実施と教員の学習チェックとモチベーションの維持と低下防止のコメント記載
- ③メディコ・佐々木先生からの国試対策講義
 - ・人体・疾病講義(25時間) / 計25時間
- ④メディリンク看護10分テスト
 - ・10分で解ける問題を244セット(1セット5~6問)
- ⑤実習中の国試対策
 - ・毎週領域別一般問題4問+状況設定問題2事例・6問=計10問
 - *実習クール終了後、確認テストの実施
 - *正答率9割達成しない学生がいるグループは全員9割達成まで再テストの実施
- ⑥模擬試験 計3回実施
 - ・9月：学研基礎学力UPチャレンジテスト1回目(人体・疾病・基礎看護)
 - ・1月：学研基礎学力UPチャレンジテスト2回目(人体・疾病・基礎看護)
 - ・2月：医教・基礎問題篇(全問模試)

3) 3年生(23期生)国試対策実施内容

- ①ナースチャレンジ・秋谷先生からの講義
 - ・国試ガイダンス+国試問題(5時間)・必修(10時間)
 - ・成人看護学(30時間)・小児看護学(5時間)・母性看護学(10時間) / 計60時間
- ②実習中の国試対策
 - ・毎日「領域別状況設定問題(1事例・3問)」の実施と担当教員による解説学習の実施
 - ・1クール終了毎の「領域別状況設定問題」「領域別一般問題」確認テストの実施
 - ・前半クール・後半クール終了毎に経験領域の一般問題全問実施
- ③ラスパDVD学習 *実習終了の10月から導入
 - ・全243項目-40時間
- ④メディリンク看護10分テスト

- ④メディリンク看護 10分テスト
 ・10分で解ける問題を244セット（1セット5～6問）
- ⑤学内教員による補講の実施
- ⑥模試結果による成績下位の不合格圏ボーダー学生の設定と強化学習の実施
 →全体への国試対策学習後さらにボーダー学生に対しての強化学習
 ・ボーダー学生への少人数グループ学習の実施
 ・ハイリスクボーダー学生へのマンツーマン学習の実施
 ＊ハイリスクボーダー＝模試不合格圏Dランクに達しないEランクの学生
 or 全国偏差値20台以下の超強化学習必要な学生対象
 ボーダー学習延べ日数：14日間の実施 対象学生延べ人数：29名
 ＊マンツーマン学習対象人数：3名
- ⑦模擬試験－必修模試3回＋全問模試7回＝計10回実施
 ＊必修模試：医教2回－必修Ⅲ・Ⅳ（6月）、Ⅰ・Ⅱ（12月）
 アカデミー1回（7月）
 ＊全問模試：学研チャレンジテスト3回（6月・8月・11月）
 アカデミー模試3回（8月・10月・12月）
 メディックメディア模試1回（1月）
- ⑧新出題基準に対応した過去問の出題状況の作成と頻出項目の学生提示

2. 国試対策総括

今年度の国試対策活動は、昨年度同様、コロナ禍の影響を大きく受けながらの実施を余儀なくされた。特に3年生実習終了後の学内における極めて重要な国試対策期間において、在校生のコロナ感染者や相次ぐ濃厚接触者の発生により休校になるなど、その都度の計画変更と、直接の国試対策指導ができないといった状況が発生することとなった。加えて、外部講師による国試対策講座においても、対面での講義ができず全てがリモート講義になるなど、困難を極めた国試対策活動となった。その分、限られた期間となった学内での国試対策の重要性が増し、どう国試対策学習を入れていったらいいのか、新たな取り組みが求められることにもなった。

1年生（25期生）については、「基礎的知識の習得」と「継続的学習習慣の獲得」を目標に、国試対策ドリル及びワークによる定期的な学習の実施と、看護師国家試験問題集を使った、国試対策ノート学習への取り組みを行った。また、国試問題集実施の進捗状況に合わせた確認テストも実施し、学習内容のinput－確認テストによる知識のoutput学習を繰り返し、確かな知識の定着が図れるよう指導を行った。これまで学習経験の乏しかった学生が「分かった・理解できた」の積み重ねにより、基礎的学習姿勢の構築にもつなげることができた。外部講師による国試対策講義では、2日間の集中学習となる「夏期集中講座」実施の他、後期には、基礎知識確認のための模擬試験を行った上で、弱点強化と「国試受験につながる基礎固め」の講義を行った。

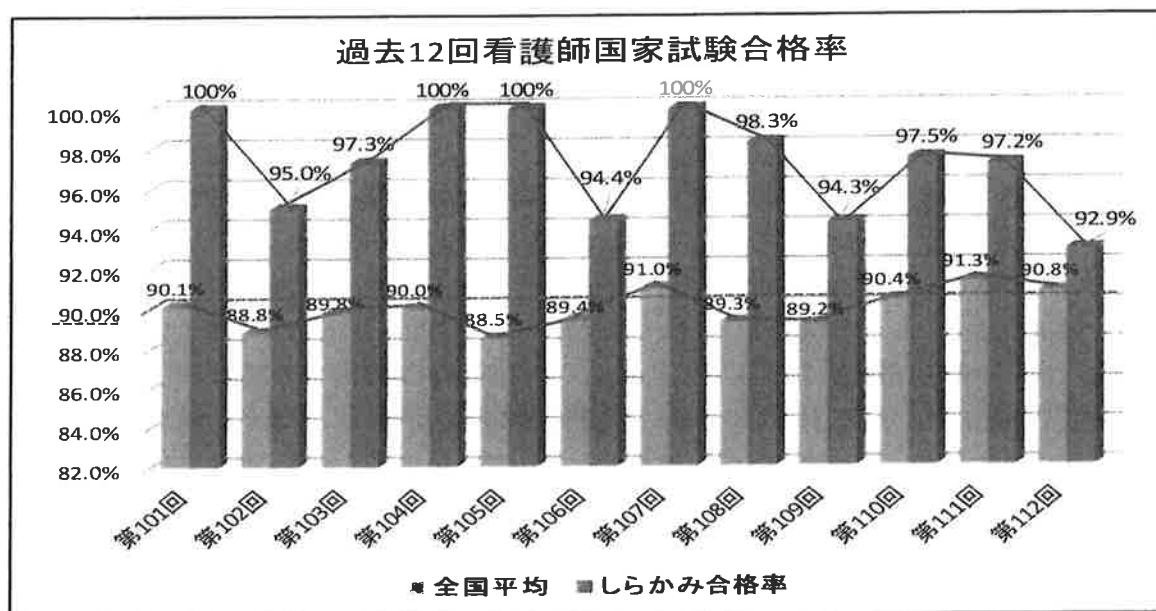
2年生（24期生）については、看護師国家試験に必要な机上学習がすべて終了する学年でもあり、国試合格に向かう重要な知識の土台作りを意識した取り組みを実施した。講義内容も、人体－疾病－治療－看護の一連の学習を行う学年であることから、毎日国家試験問題を解きながら出題形式に慣れ、「調べ学習」や「解説学習」のスキルを身につけながら、3年次の国試対策学習に必要な、「自己学習力」「継続力」「集中力」の形成につなげられるよう意識し実施した。また、自宅学習及び隙間時間の活用として、スマホでできるメディリンク看護10分テスト（10分で解ける問題を244セット）を導入し、その進捗状況を確認しながらの学習指導も実施した。外部講師による国試対策講義では、人体の構造から疾病の基礎を押さえる講義を行い、学年末

には国試と同様の 240 問全国模試を実施し、3 年次の国試対策への意識づけを行った。

3 年生 (24 期生) については、外部講師による国試対策講座の他、学生アンケート (別紙資料) でも、全員の学生から「成果があった」とされた学内教員による補講を、出題基準に沿った頻出項目や、模試での低正答率だった項目を取り上げながら実施した。また、自宅学習及び隙間時間の活用として、スマホを使ったメディリンク看護 10 分テストの実施と、学内教員が補講対応できない時間の自己学習時間におけるラスパ DVD 学習を行った。いずれも効果的な学習につながれたことが、学生アンケートでも明らかとなった。模擬試験については、ほぼ 1 ヶ月に 1 回の定期的な全国模試の実施 (計 10 回実施) により、知識の確認と、全国偏差値による学生個々の置かれている成績位置の確認、得点率の低い弱点領域の明確化を行い、各学生の具体的な学習ポイントの分析と明確化を図りながら、学習を進めることができた。実習期間中においては、国試過去問から「領域別・状況設定問題 (1 事例 3 問×12 事例 36 問)」の毎日の実施と、担当教員による解説学習を実施した。実習中の状況設定問題の実施については、学生アンケートで「成果があった」と 97.2%の学生が答えており、結果的に実習中の領域の事例・状況設定問題を解くことでエピソード記憶となり、知識の定着につながる学習となり、配点率の高い状況設定問題に対しての得点率を高めることができた。この強化策がしらかみの強みとなり、必修問題・一般問題にも効果的に波及し、総合点でも全国平均と差がない得点を挙げる事ができたといえる。

この他、模試結果分析からの取組みとして、不合格圏にある成績下位のボーダー学生に対しては、各教員が受け持って少人数のボーダー学習を実施。最終的に成績が停滞して上がらない不合格圏 D ランクの学生及び、全国偏差値 20 台以下のハイリスクボーダーである E ランクの学生に対しては、数名の教員によるマンツーマンの個別学習が実施された。今回、成績下位層が例年に比べて多く、模試結果でクラスの 3 分の 1 が不合格圏の D ランク (うち数名は E ランクの学生) であったことから、ボーダー学習は延べ日数 12 日間の実施となり、対象となった学生は延べ 30 名に及ぶ実施となった。

以上の緻密で濃密な国試対策の取り組みが実施された結果、受験者 42 名中、合格点に 1 点・2 点届かず惜しくも 3 名が不合格となったものの、全国の合格率が 90.8%の中、当学院は 92.9%と全国平均を上回る合格率を達成することができた。今回の看護師国家試験は新出題基準からの出題で難易度が高くなり、秋田県内における看護大学でも多くの不合格者を出すなど、苦戦を強いられる看護師国家試験となった。当学院の結果は、その中でも善戦することができたものと評価することができる。



3. 次年度に向けた課題

今年度国試対策として実施し、効果的であった取り組みについては継続しながら、以下の点については検討・修正し、次年度の「全員合格達成」と、低学年における国試対策強化が図れるよう課題としていきたい。

- 1) 効果的な業者模試の選択及び模試回数の設定、実施時期の検討を行う。
- 2) 国試対策講座を依頼する外部講師へ、国試後の学生アンケートからの意見内容を伝え、次年度さらに効果的な講義へとつなげられるようにしていく。
- 3) 3年生については、模試の結果分析により、早い段階から強化学習が必要なボーダー学生を設定し、学生への自覚と学習への意識化をさせながらきめ細かな対応と、効果的なボーダー学習を行っていく。また、ボーダー学生の中でも、学内学習だけでは不十分と思われるハイリスクな成績下位の学生（E判定のハイリスクボーダーなど）については、マンツーマン学習の対象としていく。
- 4) クラスの中の成績上位学生が、成績下位のボーダー学生を巻き込み引き上げていく相互作用と、グループダイナミクスがクラス全体に働くよう、より効果的な学習方法の検討と工夫を行っていく。
- 5) 教員による国試対策補講について—
 - ①各領域における国試出題状況への理解をさらに深め、各教員の頻出問題への分析力・出題予測力を高めながら、効果的な補講につなげていく。
 - ②各教員の講義方法の一定の統一化を図り、効果的でレベルの高い補講（実習中の領域問題への解説学習を含め）が実施できるようにしていく。

※基本的な補講の流れ

┌	講義→確認問題→解説→確認	⇒知識の確実な定着へ！
	人体→疾患→治療→看護	

4. 今後の国試対策への取り組みについて

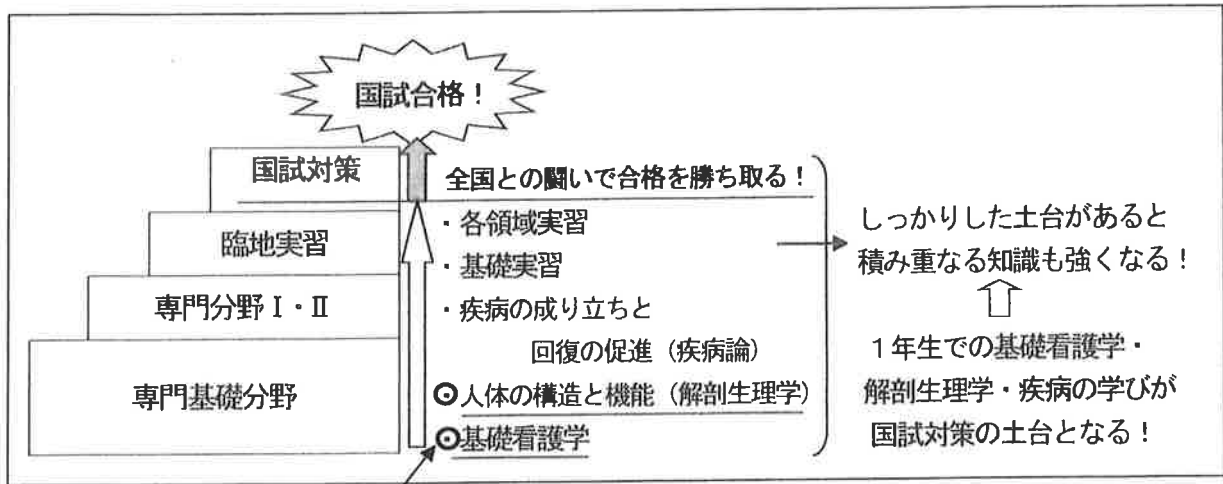
看護専門学校にとっての究極的な大命題は、看護師になりたくて入学し、無事3年次2月の看護師国家試験を受験できた学生の全員を合格させることである。もちろん、専門職業人としての必要な「知識・技術・態度・感性」を育てることが求められているが、看護師国家試験に合格し看護師になれば、この学校に入学したことの目的は達成し得ない。そのことの自覚を、1年次から学生自身に強く意識づけながらも、私たち教員は「看護師国家試験の全員合格」という目的達成に向けた、強い使命感とその取り組みが求められている。

当学院に入学してくる学生の状況を考えると、看護大学の新設・増加、看護の専門性の高まりなどによる国試問題の難易度が年々高くなる状況の中で、看護師国家試験を突破するための基礎的学習能力を持った学生の入学があるとは言い難い現実がある（例年、1年次の全国模試の結果では、受験校中の極めて下位の成績であり、学生の個人成績でもほぼ全国の最下位に近い学生が多数いる状況）。当学院の国試合格率も、国試対策への組織的な対策が十分に実施されていなかった過去には、受験者のうち10名を超える不合格者（Max13名＝合格率67.5%）を出していた時期がある。現在も常にそうした危険と背中合わせの学生状況の中での国試対策であり、教員らは少しも手を緩めることはできない。その学生らを3年次2月の看護師国家試験受験までに、全国の受験者6万6千人と戦って合格できる水準まで学習能力を押し上げ、「全員合格」を達成していかなければならない。基礎的学習能力が厳しい学生らと向き合いながら、当学院教員らに課せられた使命を強く意識し、全力で今後の国試対策に取り組んでいかなければならないと考える。

次年度に向け、強化が必要な取り組みとして—

1年次からの看護師国家試験問題集への取り組みについては、国試後アンケートの結果より、

多くの学生が国試受験にあたって、国試問題への取り組みが十分に間に合っていないことを自覚し、早い学年からの取り組みの必要性を述べていた。そのことから、1年次における効果的で確かな土台作りをしながら、3年次の国試受験までにできるだけ多くの国試過去問への取り組みができるよう、1年次の早い段階で国試問題集を購入し取り組みを勧めていきたい。

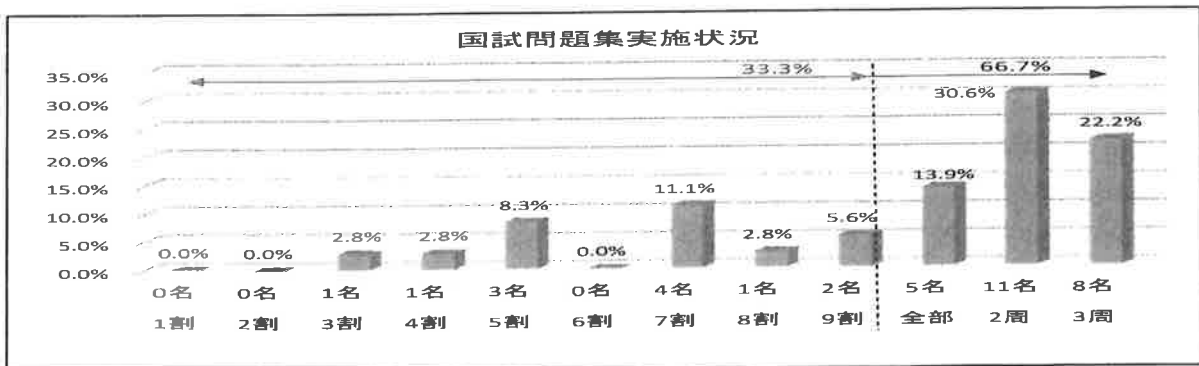


* 国試合格の最も土台となるところの取り組みの強化を図る！

また、23期生国試後アンケート結果への分析からー

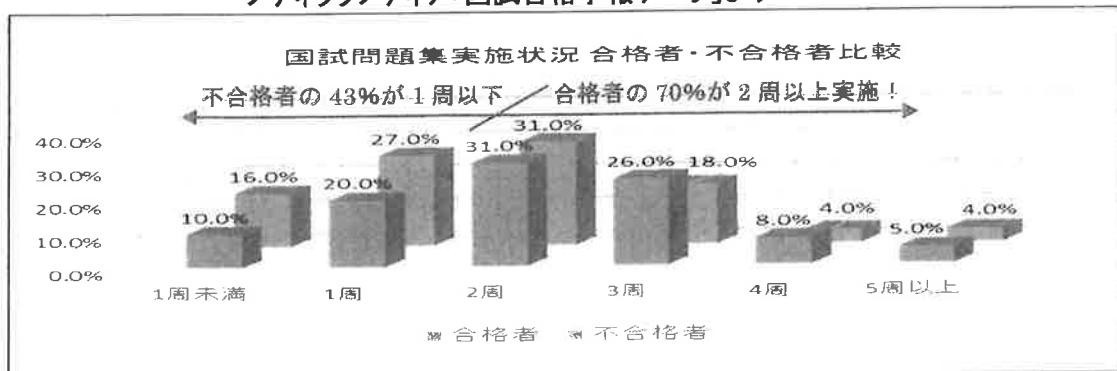
看護師国家試験問題集（メディカルフレンド）の実施状況は、国試受験時に1周以上実施していた学生は66.7%であり、前年度より6.1ポイントアップしていたものの、3分の1の学生は9割以下の実施率（最低3割）で国試受験に臨んでいた。目標だった「全員2周の実施」には、程遠い結果であったことから、さらなる実施率向上に向けた取り組みが必要といえる。

23期生アンケートよりー看護師国家試験問題集の国試受験時の実施状況



看護師国家試験問題集の実施の必要性について、メディックメディア「国試合格予報データ」（国家試験受験者 31,740名へのアンケート）による合格者と不合格者の比較からー

メディックメディア「国試合格予報データ」より



「国試合格予報データ」から国試不合格者は、国家試験受験時点での国試問題集の実施状況が1周以下の割合が高く、国試合格者は70%の人が2周以上の実施となっていた。このことから、国試問題集を2周以上実施することで、国試合格が近づいてくることが明らかになっている。また、国試問題集実施による過去問への取り組みの重要性は、その出題状況においても明らかであり、国試問題のプール制が厚生労働省から示されてから以降、業者調べで、出題される全問題の4割が過去問からの出題であることが確認されている。あらためて国試対策における国試問題集の実施、過去問への取り組みの重要性が示されたものといえる。

以上の事から、次の4点を次年度の取り組み強化として実施していきたい。

1. 1年次入学後の国試問題集の購入と実施による学習習慣の形成

1年次入学後の国試問題集の購入の継続と、基礎看護学や解剖学授業の進捗状況に合わせて、国試問題を解き確認テストを継続実施していく input-output の学習サイクルの確立により、学習習慣の形成と知識の定着による土台作り強化の取り組みを行っていく。

2. 国試問題集全問2周実施に向けた取り組み

国試問題集への取り組みを1年次から実施し、2年次では問題集実施の取り組みを強化しながら、3年次の国試受験までに国試合格の目安となる国試問題集「全員2周」実施の達成を目指し取り組んでいく。

3. 隙間時間を使ったスマホによる学習「メディリンク看護10分テスト」の継続実施

今年度、学内における国試対策学習だけでなく、自宅や通学時など学外時間の隙間時間を活用し、メディリンク看護10分テストを実施した。その結果、高いデータ分析と成績管理、学生への成績のフィードバックによる振り返り学習の実施、教員からの指導等に効果的だったことから、次年度もメディリンク看護10分テストを3年次・2年次へ導入実施し、効果的学習につなげていきたい。

4. 3年次「ラスパDVD学習」の継続実施

3年次における実習終了後の国試対策学習の強化にあたり、学内教員からの補講だけでなく、教員が対応できない自己学習時間の効果的活用方法として、ラスパDVD学習によって基礎的知識の定着につなげることができた。次年度についても継続実施していきたい。

5. 成績下位者へのボーダー学習及びマンツーマン学習の実施

模試結果分析からの取組みとして、不合格圏にある成績下位のボーダー学生に対して、各教員が受け持って少人数のグループによるボーダー学習を実施していく。また、最終的に成績が停滞して上がらない不合格圏Dランクの学生及び、全国偏差値20台以下のハイリスクボーダーであるEランクの学生に対しては、数名の教員によるマンツーマンの個別学習を実施していきたい。秋田しらかみ看護学院における国試合格率の維持・全員合格に向けては、このボーダー学習及びマンツーマン学習が最終的な生命線であり、継続実施していきたい。

2022 年度 健康診断の結果および健康管理

I 健康診断および健康管理の結果

1. 健康診断

- 1) 実施日 1年生4月12日、2年生6月28日、3年生6月16日に実施した。
新型コロナウイルス感染症流行による休校に伴い予定を変更して実施した学年もあった。
- 2) 実施場所 能代厚生医療センター
- 3) 受診者 1年生 34名
2年生 37名
3年生 43名 合計 114名

4) 二次検査及び要観察者

(1) 二次検査 要医療精査：5名 *件数は重複あり

学年	人数	胸部 X 線	血液検査	尿検査	他
1年	4	0	貧血 2	0	肝機能上昇(2)
2年	1	0	貧血 1	0	
3年	0	0	貧血 0	0	
合計	5	0	4	0	2

*要精査者には健康管理委託病院からの精査案内用紙配布し、検査を促し再検・精査・治療を奨励している。

*現在医療治療中（重複事例有）：

- 1年生 6名 過敏性腸症候群、多嚢胞性卵巣症候群、不安症・嘔吐恐怖症、アトピー性皮膚炎、
2年生 8名 アトピー性皮膚炎、側弯症、橋本病、気管支喘息、子宮腺筋症
3年生 10名 側頭葉てんかん、脂質異常症、先天性真珠腫、紅斑性腎炎、2型糖尿病
不安神経症、不安症、ナルコレプシー、球状赤血球症、頸部ジストニア

現在医療治療中の学生は、適宜、学年担任との面接相談を行い、治療継続をしている。

精査受診により治療開始した学生は5名、経過観察0名、異常無5名であった。

(2) 要観察者 : 34名 *件数は重複あり

学年	人数	貧血	肝機能上昇	肥満	血小板	高血圧	尿
1年	4	2	2	10	0	0	0
2年	1	1	0	3	0	0	0
3年	0	0	0	12	0	0	0
合計	5	4	0	25	0		0

貧血で治療を開始している。今回の健康診断では、貧血や高血圧、肥満を指摘され指導を受けた学生がいる。

2. 感染症の予防対策

- 1) 今年度は入学前に麻疹・耳下腺炎・水痘・風疹の抗体価検査を実施後入学している。入学後、

医療従事者基準に沿って抗体価が低い学生 34 名に対して、予防接種を奨励している。新型コロナワクチン接種もあるため、学校での集団接種ではなく個別接種を行った。2022 年度末現在 3 名の耳下腺炎ワクチン接種が終了していないため、2023 年度初めに接種状況を確認していく。

2) 2017 年 3 月から開始した HBs ウイルス抗体のない学生を対象にした HBs ウイルスワクチン接種は新型コロナワクチン接種の優先、クラスター発生のため接種時期が例年よりも大幅にずれ込み、年度内に 3 回接種が終了していない。2023 年 5 月ごろ 3 回目接種時期としている。その後、抗体価採血を健診と共に予定している。2021 年の接種後、2 年生で抗体が陽性にならなかった 1 名がいた。学校医に判断を仰ぎ、再度 3 回の HBs ワクチン接種を実施中で、2023 年 5 月ごろ 3 回目接種時期としている。その後、抗体価採血を予定している。

3. インフルエンザ対策（11 月～3 月）と罹患状況

1) 看護学実習期間と国家試験を考慮してインフルエンザワクチン接種の集団接種日を決定した。健康管理委託病院に委託し、1 年生：12/12、3 年生：12/13。教職員にも接種を促した。2 年生は 10 月に接種予定をしていたが、病院のクラスター発生に伴い実施のめどがたたなくなり、看護学実習に間に合うよう個別接種を促し実施した。

2) 今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により 4 月から継続して接触を避ける配置を継続した。厚生ビル清掃担当者のトイレやコミュニティなど共通使用場所の次亜塩酸ナトリウム清掃に協力をいただき丁寧な拭き掃除も継続した。

3) インフルエンザ・感染性胃腸炎の罹患状況

今年度のインフルエンザ罹患者は冬季休暇中 3 名、1 月 1 名であった。感染性胃腸炎の罹患はなかった。

4. 学院内感染予防対策（新型コロナウイルス感染症予防対策も含む）

1) 2020 年 2 月からは新型コロナウイルス感染症予防対策として、学院内でのマスク装着、手洗い、各所での手指消毒剤の使用を徹底した。また、毎日の健康行動チェックシート記載、玄関前に体温・体調確認表の記載を徹底した。

2) 実習生と在校生の居住場所や清掃場所を避ける配置を 4 月から実施し、接触を避ける配置を継続し行った。

3) トイレ内の手拭きペーパーは例年通り継続使用とし、厚生ビル清掃担当者の点検と補充をして頂いた手洗いソープはプッシュ式ボトルを継続している。また、トイレ手洗い水の温水使用へ変更、コミュニティのペーパータオルの設置で、手洗いや嗽の効果が上がったことも感染拡大予防につながっている。

3) 厚生ビル清掃担当者の協力を得て毎日次亜塩素酸ナトリウム拭き掃除を徹底した。

4) 各所にアルコール手指消毒剤を設置と学生清掃時はマイペット拭きとした。

5) 外来者については事務室前での体温測定とマスクの着用、アルコール手指消毒剤に使用を促した。

5. 学生保健委員の活動

所属学年の健康診断誘導やワクチン接種時の誘導に協力した。2020 年 2 月からは新型コロナウイルス感染症予防対策として体温・体調確認票記載確認を行い、未記載・体調不良者の報告を行っていた。

る。1年生は保健室のベッドメイキングおよび物品チェックを毎月1回、救急薬品の期限チェックと不足品のチェックを毎月1回行い環境整備に力を入れた。

6. 学生のメンタル面への対応

1) 今年度は月1回の学校カウンセラー相談が再開し利用している学生もいる。学校相談室利用は0件。他には、学生の相談は学年担任やそれぞれの学生が学ぶ場面（授業・実習など）で担当した教員が対応を継続している。

7. 疾病治療継続中の学生への配慮

1) 貧血・肝機能上昇のあった学生は受診し、治療なく終了している。
2) アトピー性皮膚炎、側弯症、橋本病、気管支喘息、子宮腺筋症、睡眠不足症候群、側頭葉てんかん、脂質異常症、先天性真珠腫、紅斑性腎炎、2型糖尿病、不安神経症、不安症、ナルコレプシー、球状赤血球症、頸部ジストニアのある学生は定期受診し経過観察をしている。

8. 保健室利用頻度について

25件の利用であった。生理痛や気分不快による使用や気持ちを落ち着かせるためなどのメンタル面があり一次的な経過観察も多くあった。

9. 看護学実習に関すること

特になし

II 次年度の課題と計画

新型コロナウイルス感染症流行があり、学院全体で感染症予防行動が取れた。外部清掃部にも協力が得られたことに感謝したい。予防接種は学校医のいる健康管理課と連携をとっているが、新型コロナウイルス感染症の罹患やクラスター発生などにより調整が必要となり、接種時期の変更や学生へ個人接種を促すこととなった。看護学実習や学内講義受講、国家試験への影響がないよう感染症の流行状況によって集団・個人接種を計画していく。今後も学生の健康の保持増進に努めて、学生の学習の機会を失くさないよう早期の受診治療へつなげ健康維持できるようにしていく。

1) 健康診断・予防接種 について連携して計画していくことを継続する

新型コロナワクチン接種も追加されているためHBsワクチン接種と小児感染症予防接種は、入学前に「医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版」に照らし合わせ抗体価検査・接種を促していく。

2) 健康管理における健康への啓発活動を担任と協力して継続する

(1) 積極的な受診・治療行動への促しをガイダンス時に説明する

(2) 治療継続者の健康状態の把握と問題への早期対応をする

3) 生活習慣を整え健康管理する意識づけの継続

(1) 入学時の保護者会・入学時ガイダンス・実習前ガイダンスでの意識づけを行う

4) 感染症予防および発生時の早期対応を学院規則に準じて実施・継続する

(1) 2020年2月からは新型コロナウイルス感染症予防対策として継続している、学院内でのマスク装着、手洗い、各所での手指消毒剤の使用を徹底した。また、毎日の健康行動チェックシ

ート記載、玄関前に体温・体調確認表の記載を徹底していく。

(2) 学内感染予防対策は厚生ビル清掃担当者からの協力をいただきながら実施していく。

(2) 臨地実習中の感染症対応については実習病院と協議のうえで対策を決める

5) スクールカウンセリングの受診のすすめを継続

学生相談を実施していることを入学時ガイダンスで紹介し、随時必要時には紹介をする

6) 保健室の整備を定期的に行うことを継続する

(1) 清潔な環境の提供を学生保健委員と共に実施する

行事ごとの清掃と寝具交換

シーツ交換を使用汚染時および毎月の最終日に交換（保健委員の活用）

(2) 保健室利用の状況把握

利用ノートの記載を徹底する（教員への周知）

7) 救急物品の整備を学生保健委員と共に実施する

(1) 5月・10月に保健室物品チェックと救急物品の点検

(2) 保健室利用ノートおよび救急物品ノートは教務室に保管する

教員の業績

R 4 教員業績

氏名 近藤 美喜

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
	能代市	コロナワクチン接種問診 手伝い	
	秋田県看護協会	認定看護管理者教育運営委員会委員	
研修			
R4年8月8日	秋田県看護教育研究会	経験型実習教育 —経験から学ぶことの価値を知る— 講師：安酸史子先生	

R 4 教員業績

氏名 中村 陽子

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
5/9	能代市学生消防団	25 期生 辞令式 担当	
10/23		ボランティア参加「能代市産業フェア」 巡回	
4～5 月 8～12 月	能代市 新型コロナワクチン接種 (協力)		
8/30 12/16	令和 4 年度 看護職員確保対策特別事業 (教育ライン) 看護基礎教育における地域住民と連携した教育事例収集業 連 携教育事例の収集事業ヒアリング調査 (取材)		
研修			
8/8	秋田県看護教育研 究会 Zoom 配信	スキルアップ研修 「経験型実習教育 ～経験から学ぶことの価値を知る～」 関西医科大学看護学部・研究科教授 安酸史子氏	
12/15	日本看護学校協議 会 副学校長・教務 主任会	「教育現場におけるパワーハラスメント」 蒔田法律事務所 弁護士 蒔田 覚氏	

R 4 教員業績

氏名 柴田 守

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
研修			
2022/8/8	秋田県看護教育研究会	経験型実習教育経験から学ぶことの価値を知る「研修オンライン」 講師：安酸史子先生	

R 4 教員業績

氏名 佐藤 雅子

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
2022年4月 ～2023年3月	北秋田市米内沢地域 地域進行委員	会議（定例 毎月）	
2022年9月 25日	100キロマラソン	ボランティア活動	
研修			
2022年12月 4日	日本アロマセラピー 学会	森と植物の恵みを楽しむアロマセラピー ～かおり研究の最前線から健康を考える～	
2022年12月 10日	秋田県看護協会	暮らしの中にある看取りケア ～最期まで本人・家族を支えるために～	

R 4 教員業績 氏名 杉本 史

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
7/11	実習指導者講習会 (横手市)	実習指導者講習会<特定分野>地域在宅 看護論実習の展開	
研修			
12/12	日本看護学校協議 会	ICTを活用した授業設計 ～学習者としてのICT活用能力～	

R 4 教員業績

氏名 加藤 夏生

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
R4年 4～5月	能代市保健所	能代市新型コロナワクチン集団接種	
R4年 7～9月	能代市保健所	能代市新型コロナワクチン集団接種	
R4年 10月 ～ R5年 1月	能代市保健所	能代市新型コロナワクチン集団接種	
R4年 5月 21日	秋田県看護協会 能代山本地区支部	看護の日事業	
研修			
R4年 5月	学研	看護師国家試験分析レポート 受験指導対策セミナー2021・春【分析編】	
R4年 8月 8日	秋田県看護教育研 究会 Zoom 配信	スキルアップ研修 「経験型実習教育 ～経験から学ぶことの価値を知る～」 関西医科大学看護学部・研究科教授 安酸史子	
R4年 9月 25日	照林社	いま取り組みたいカリキュラム・授業	
R4 11月 3日	メディックメディア	臨床判断能力の育成を意識したフィジカルアセスメント教育	
R4 11月 12日	メディックメディア	看護過程指導戦略：永田流反転授業とその成果	
R4 11月 27日	メディックメディア	基礎看護学の授業設計：今どきの ICT・DX を活用した看護技術の授業展開	

R 4 教員業績

氏名 田中 多喜子

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
6/14 13~15時	能代市 市民福祉部 子育て支援課「子育て支援センター」	ファミリーサポーター・託児サービス支援員 養成講習会 講義内容：「小児看護の基礎知識」	
4/17	能代市	新型コロナワクチン接種等業務委託	
研修			
8/8	秋田県看護教育研究会 Zoom 配信	スキルアップ研修 「経験型実習教育 ～経験から学ぶことの価値を知る～」関西医科大学看護学部・研究科教授 安酸史子	
11/3 13:00~16:30	メディックメディア：看護がみえる WEBセミナー	「臨床判断能力の育成を意識した フィジカルアセスメント教育」 放送大学大学院文化科学研究科 生活健康科学 教授 名古屋大学 名誉教授 山内豊明先生	
11/12 13:00~16:30	メディックメディア：看護がみえる WEBセミナー	「看護過程指導戦略：永田流反転授業とその成果」愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻 基盤・実践看護学講座 基盤看護学准教授永田 明先生	
12/24 13:00~16:30	メディックメディア：看護がみえる WEBセミナー	「看護過程の展開方法を論理的に徹底解説 臨床推論・臨床判断との関係とは？」 メディックメディア 看護系第二編集部編集長 竹内 亨先生	
2/19 13:00~15:00	日本看護技術学会 2022年度第10回 全国キャラバン研修会 Zoom 配信	技術研究成果検討委員会 主催 ジェネラルナースの技術力を高めよう 「エビデンスに基づく排泄援助の技」	
2/23 10:00~12:00	日本看護技術学会 2022年度第11回 全国キャラバン研修会 Zoom 配信	技術研究成果検討委員会 主催 ジェネラルナースの技術力を高めよう 「オンラインで移動動作技術が楽しく伝わる秘訣」	

R 4 教員業績

氏名 山平 良子

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
4~5月 8~12月	能代市	新型コロナワクチン接種 (協力)	
研修			
6月26日 9:40~10:40	日本母性看護学会	教育講演1 今からでも間に合う 100歳まで歩ける体力づくり・コロナ禍の人々への影響とサポート	オンライン
6月26日 10:50~11:50	日本母性看護学会	特別講演1 妊産婦の保健指導に役立つ・行動経済学からみたコロナ禍の人々への影響と行動変容支援	オンライン
1月21日 13:30~16:50	日総研	今どきの若者の“論理的思考力”を高める教育法	オンライン (録画配信)

R4 教員業績

氏名 宮腰 美穂子

研究論文及び発表			
日時	学会名	テーマ	備考
社会活動			
10月	北秋田市コロナワクチン接種ボランティア		
12月	日精看	こころの健康オンライン研修会サポート	
研修			
2022/8/8	秋田県看護教育研究会	経験型実習教育経験から学ぶことの価値を知る「研修オンライン」 講師：安酸史子先生	

<自己点検・自己評価委員>

学院長：近藤 美喜

事務長：小野 鈴江

教務主任：中村 陽子

評価委員：鍋谷 久美子

